

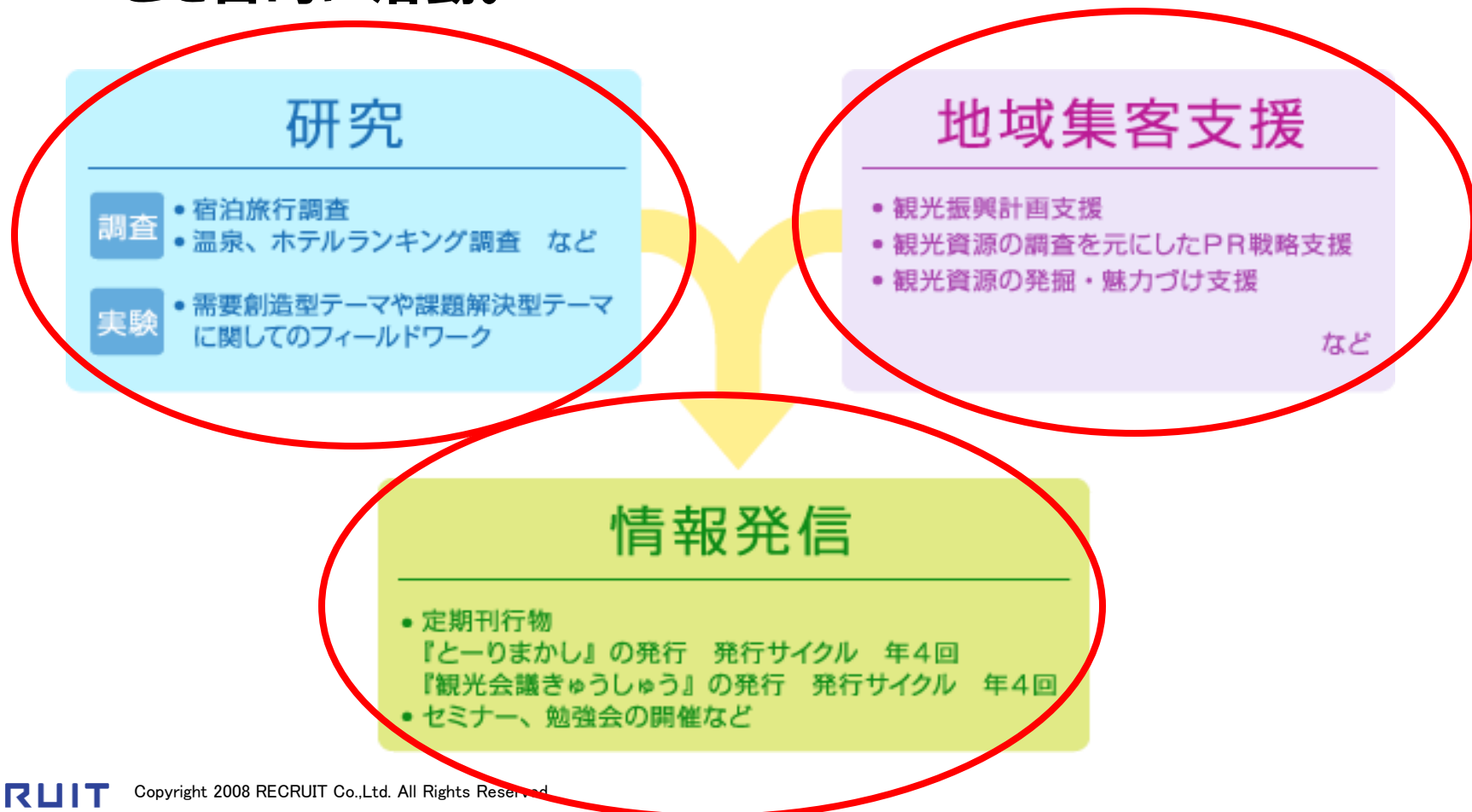
スキーエリア活性化のための マーケット調査結果



研究員 加藤史子

じゃらんリサーチセンターの活動について

- ビジョン: もっと「お出かけ」したくなる世の中に
- 旅行・レジャーの動向をつかみ、国内旅行市場を活性化することを目的に活動。



調査実施の背景

調査背景①

■ 観光需要全体の拡大にとっても、大事な冬季のスキーエリアの需要創出

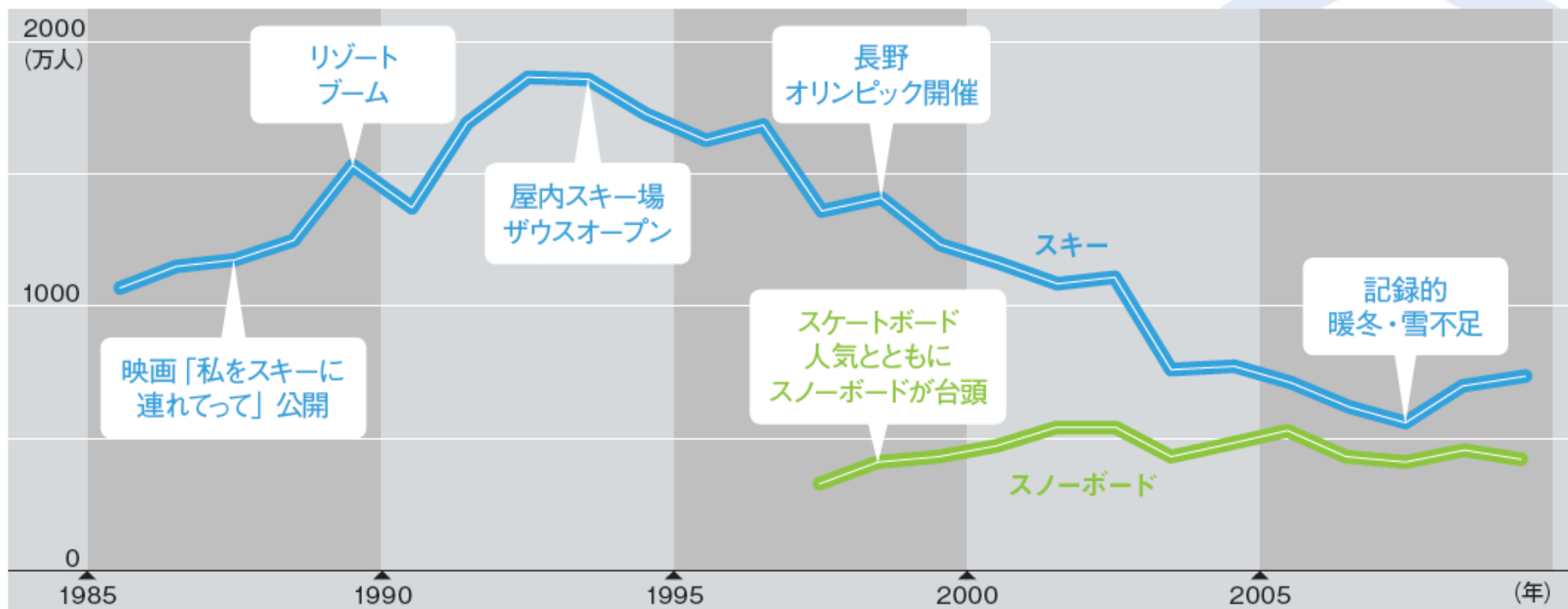
- ☞ 春・夏・秋の観光振興はもちろん、通常観光においては「オフシーズン」と思われがちな冬季シーズンに、多くの人を訪れるスキーエリアの盛り上げは、観光業界全体の大きな課題

■ かつての「スキীবーム」のように、何も施策を打たずとも、誰もがスキーエリアを訪れる時代ではない

- ☞ どのようなお客様に向って、何を伝えていくかを業界連携して考え、行動していく好機

■ スキー・スノーボードの人口推移

図1 スキー・スノーボードの人口推移



出典：「レジャー白書2010」日本生産性本部（2010年7月）1年間に1回でもその活動に参加した人の人数であり、のべ人口ではない。2009年度データより、調査手法が訪問留置法からインターネット調査に移行。

調査背景②

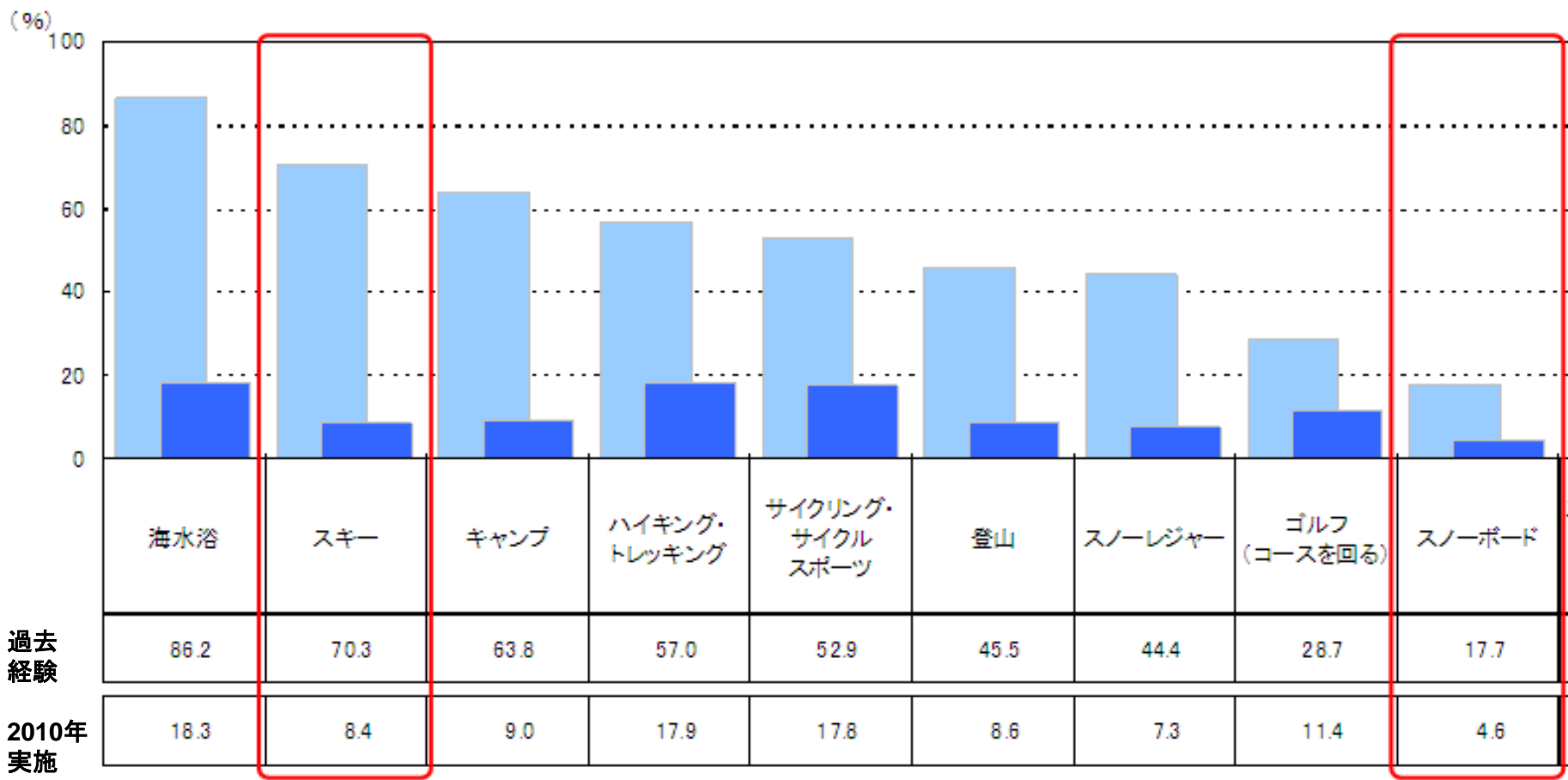
- 調査目的の1つは、「スキーエリアへの**集客を増加**していくために、**どのような人々が見込み顧客**になりえるか？」を知ること
 - ☞ 誰もがスキーエリアに訪れる時代ではないため、有望な顧客層(=ターゲット)を探ることが重要
 - ☞ 18歳—69歳の男女、3万人に対する**1次調査**を実施
- 次に、「**見込み顧客(ターゲット)**」の嗜好を知り、**どのような打ち手が有効か**を知ること
 - ☞ 1次調査によるターゲットに**本調査(2次調査)**

1次調査

- **潜在需要(意向率－実施率)を性・年代別に把握し、今後開拓できる可能性の高いターゲット層を抽出する**
 - 全国47都府県在住の18～69歳男女(30,000件)
 - 性別(2区分)×年代別(5区分)の10区分を均等割付
- **調査手法:インターネット調査**
- **期間:2011年1月5日(水)～1月14日(金)**

- ・アウトドアレジャーで、過去経験率が最も高いのは『海水浴』(86%)。以下『スキー』(70%)、『キャンプ』(64%)と続く。
- ・昨年(2010年)の経験率が最も高いのも『海水浴』(18%)。以下『ハイキング・トレッキング』『サイクリング・サイクルスポーツ』(18%)、『ゴルフ』(11%)と続く。

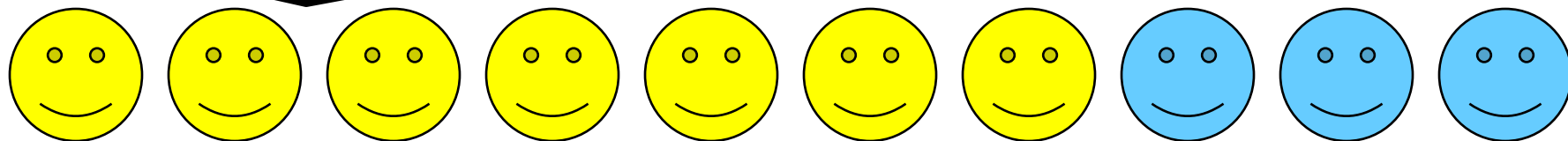
→ 過去経験率の非常に高いスキーだが、昨年実施率ではゴルフに抜かれている。



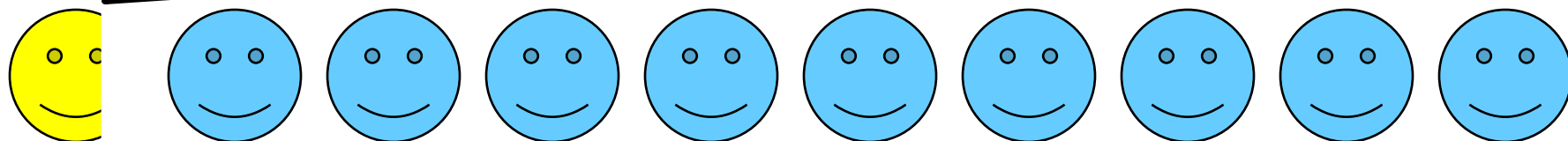
■ アウトドアレジャーの中で過去経験率が「海水浴」について高い「スキー」(70%)。休眠率は62%

☞ スキーブーム時代の遺産だが休眠率も高い

過去、スキーやったことあります！(7人)



2010年もスキーやりました！(0.8人)

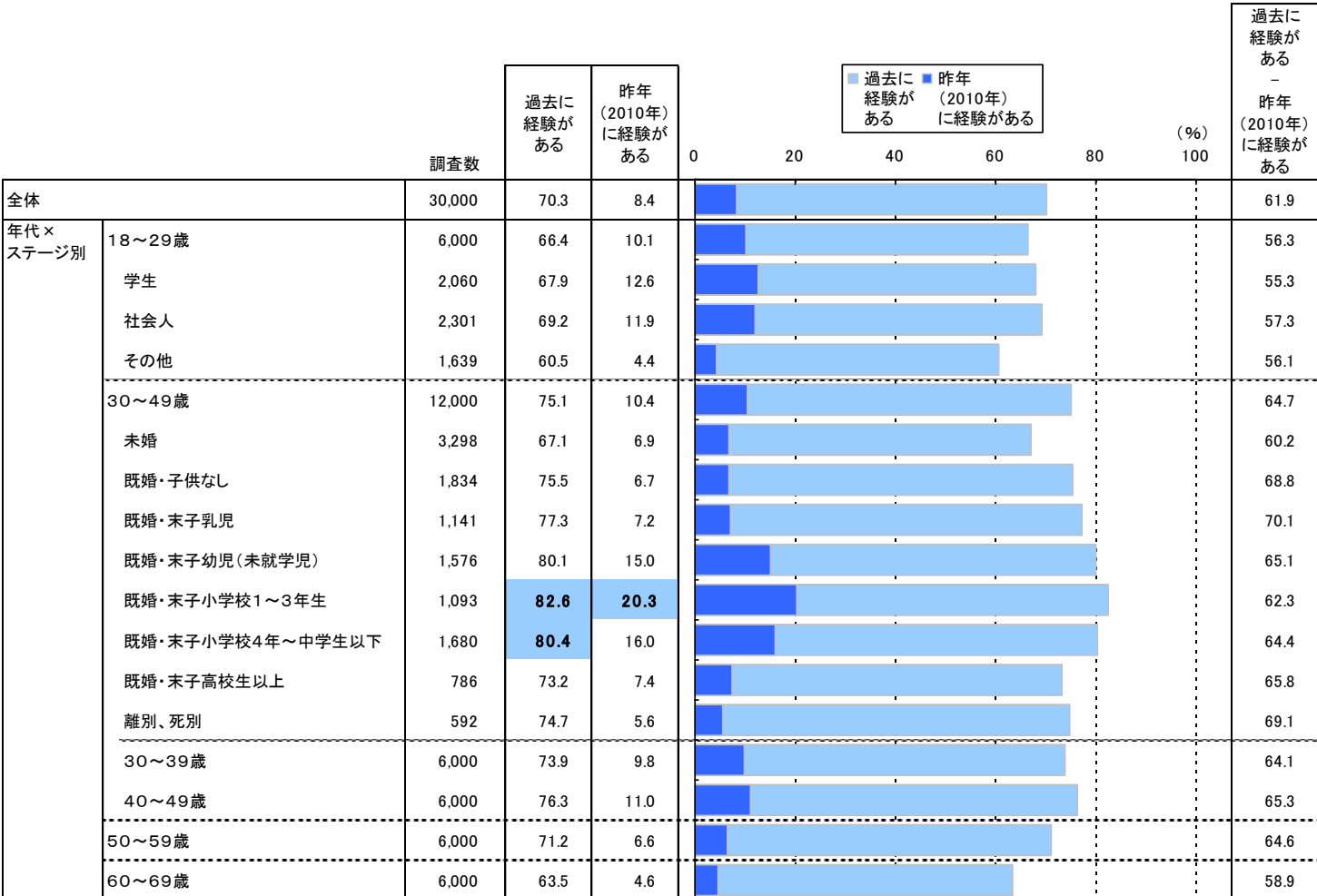


・『スキー』昨年実施率(青の棒グラフ)が、高いのは

- ①「末子小1-3」(20%)
- ②「末子小4~中学生」(16%)
- ③末子幼児(15%)
- ④「18歳-29歳(学生)」(13%)
- ⑤「18歳-29歳(社会人)」(12%)の順。

他ステージは、10%以下となる。未婚、既婚子なし、子供高校生以上では低い。

・末子年齢が小さいほど、休眠率が高く、「末子乳児」では、休眠率70%ですべてのステージ別で最も高く休眠している。

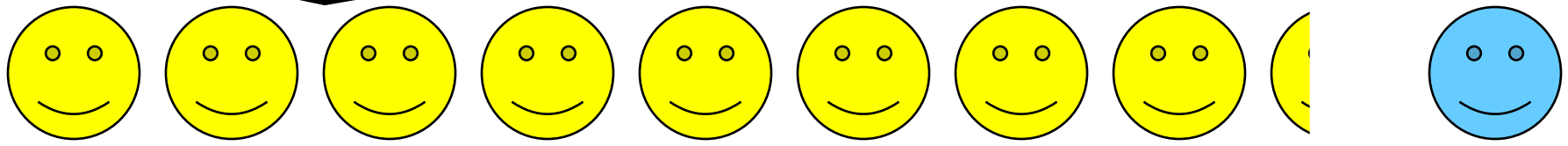


+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け

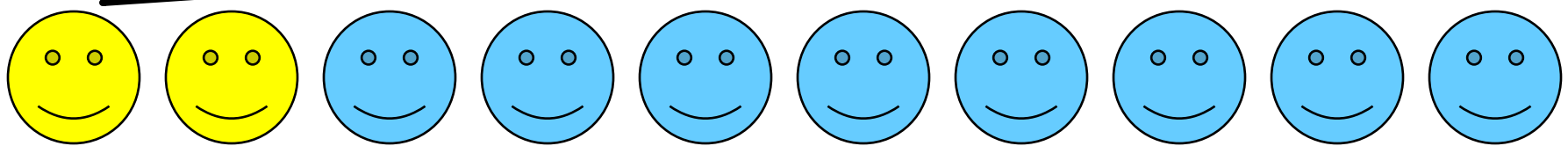
過去経験率が最も高い層(83%)は、**末子年齢小1-3のファミリー層**であり、2010年実施率も最も高い(20%)

前後の世代も、「過去経験率」が高く、「**末子小4-中学生**」と「**末子幼児(未就学児)**」は、ともに過去経験率80%。2010年実施率は、16%と15%。

過去、スキーやったことあります！(8.3人)



2010年もスキーやりました！(2人)

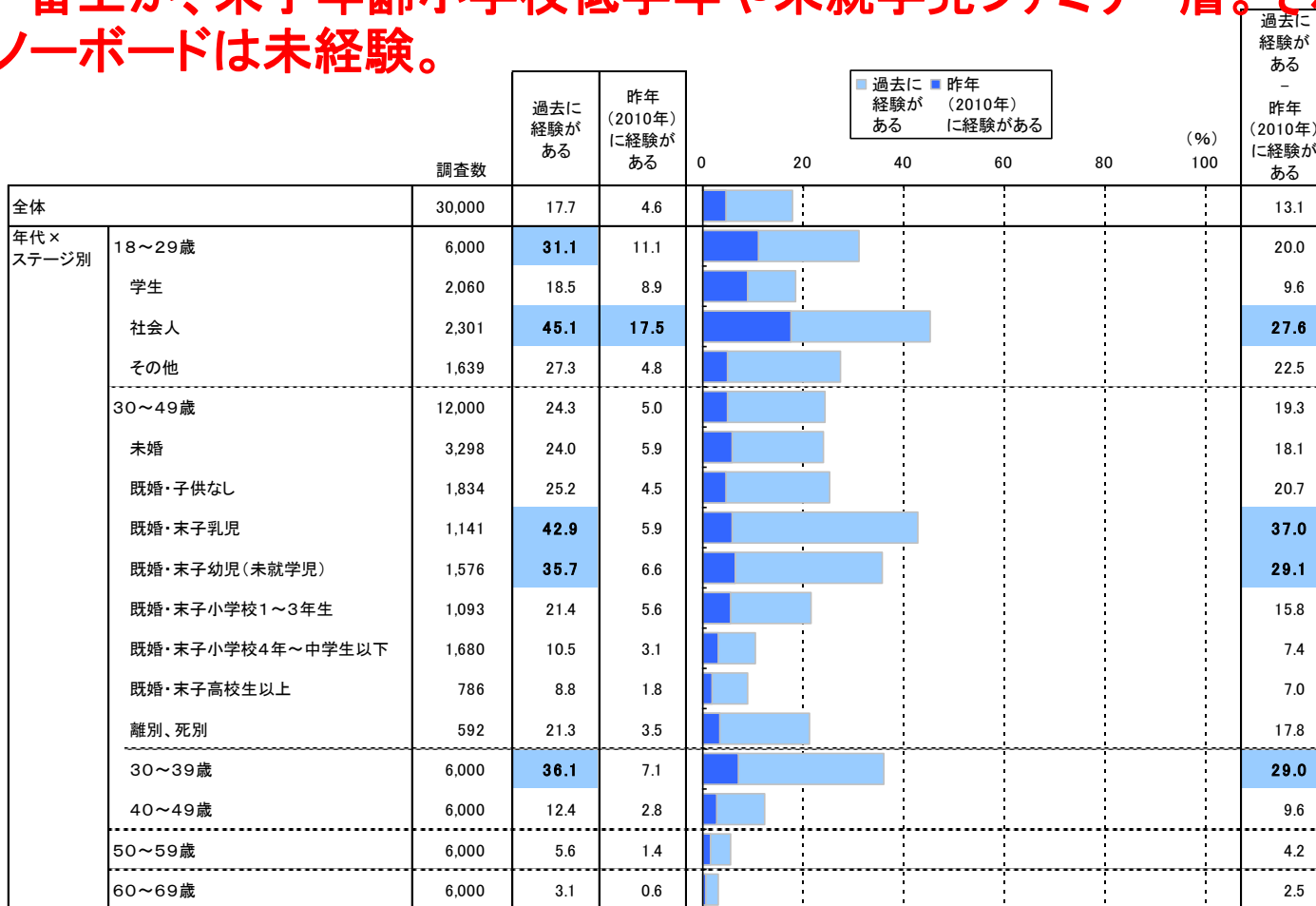


全国のスキーファミリー需要の背景

- 30歳前後で出産、小1－3のお子さんを持つ親は現在、**35歳～45歳前後層**
 - 東京都初産年齢30.9歳
- **スキーブーム最盛期1990年～1995年に、彼らは10代後半～20代の若者だった**
 - 若者時代とスキーブームが重なり、多くの人がスキー場へ足を運んだ
- **スキーブーム最盛期に若者時代が合致し、何度もスキー場へ行った世代が、今、小学生のお子さんを持つ親になり、スキーファミリー需要となった(団塊Jr世代1学年200万人)**

- ・『スノーボード』の休眠率は全体で、13%。
- ・『スノーボード』の過去経験率(水色の棒グラフ)は、18歳—29歳の「若年層」と、「末子の年齢が小学校1—3年生」までで高い。
- ・『スノーボード』2010年実施率(青色の棒グラフ)が最も高いのは18歳—29歳の「社会人」

→そもそも、スノーボード人気が盛り上がりを見せたのが2000年前後。「スノーボード世代」の一番上が、末子年齢小学校低学年や未就学児ファミリー層。それより上の世代は、スノーボードは未経験。



全国のスキーファミリー需要は有限？

- 「末子高校生以上」の2010年実施率は7%
 - ☞ 子供が大きくなると親との旅行は減少すると思われる
- 2010年最も実施率の高かった「末子小1-3」は、**最短6年後**には「末子高校生以上」へ
 - ☞ 子連れ旅行を積極的にする「ちびっこ連れファミリー」は移り変わっていく。新たなパパママはスキーブーム以降の世代に。
- **スノーボード世代の最初の世代がパパママに**
 - ☞ スノーボード世代が子連れでゲレンデに来る時にスノーボードをするのかスキーをするのか？

若年層はスキー・ボード両方でメイン顧客

- 2010年**スキー**実施率は、子連れファミリー層よりは低いが、その次に高い層。「**18歳-29歳(学生)**」(13%)、「**18歳-29歳(社会人)**」(12%)
- 2010年**スノーボード**実施率は、「**18歳-29歳(社会人)**」が全ステージ中最も高く**17%**。続くのが「**18歳-29歳(学生)**」で、**9%**。
- **スキースノーボード両方で、スキーエリア来訪のメイン顧客層**

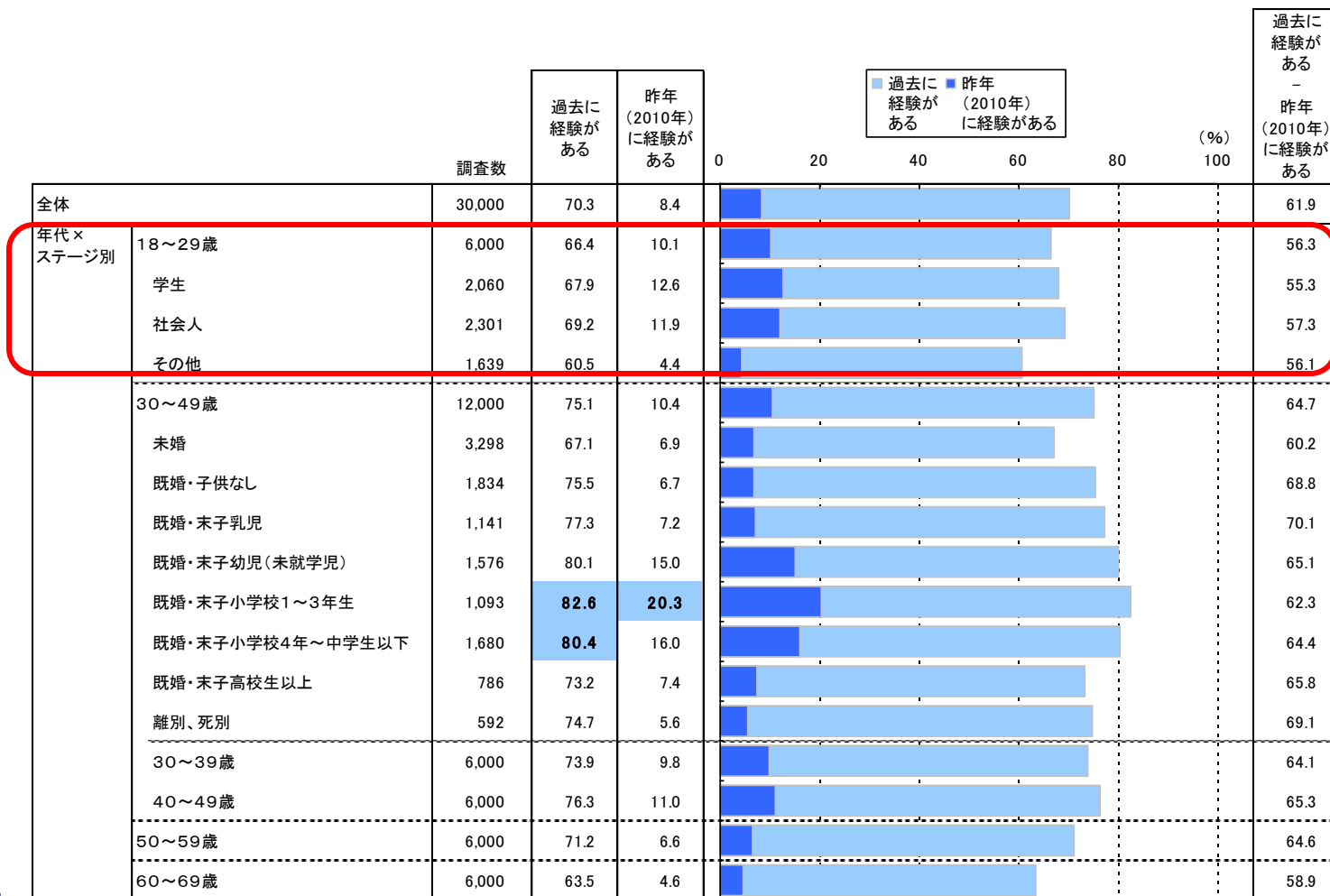
【再掲データ】

・『スキー』昨年実施率(青の棒グラフ)が、高いのは

①「末子小1-3」(20%)②「末子小4~中学生」(16%)③末子幼児(15%)

④「18歳-29歳(学生)」(13%)⑤「18歳-29歳(社会人)」(12%)の順。

他ステージは、10%以下となる。未婚、既婚子なし、子供高校生以上では低い。

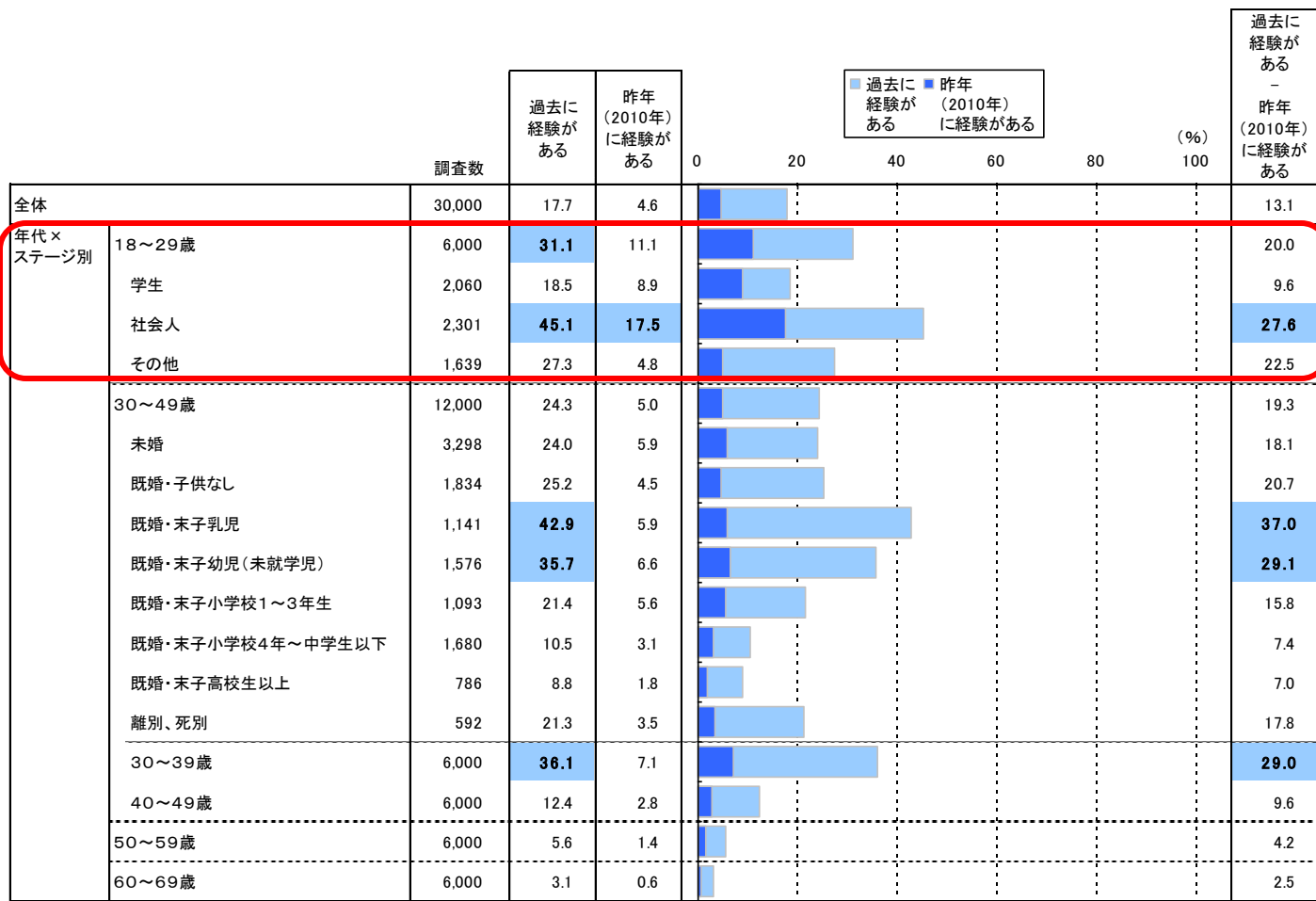


+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け

SC.S01-S02-01

【再掲データ】

・『スノーボード』2010年実施率(青色の棒グラフ)が最も高いのは18歳～29歳の「社会人」で、17%。続いて、18～29歳の「学生」で9%。



+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け

SC_S01-S02-02

1次調査結果より スキー・スノーボードの 「未来」(潜在需要)について

潜在需要

■ 潜在需要とは？

- ☞ 意向率から実施率を引いた数値を集計

■ 意向率とは？

- ☞ スキー・スノーボードについての意向率（「非常にしてみたい」、「ややしてみたい」と回答した率）
- ☞ 5段階での上位2段階の合計

■ 実施率とは？

- ☞ 2010年（2010年1月1日～12月31日まで）に、実際にスキー・スノーボードに行った率

	潜在需要 (%)	
	スキー	スノーボード
全体 (n=30000)	25.4	17.0
18歳～29歳 (2010年実施率)	34.3	33.4
学生	40.4	37.2
社会人	31.1	30.7
その他	31.2	32.5
30～49歳 (2010年実施率)	26.8	19.1
未婚	22.7	17.8
既婚・子供なし	25.4	16.3
既婚・末子乳児	36.2	30.3
既婚・末子幼児 (未就学児)	29.7	24.9
既婚・末子小学校1～3年生	27.7	20.6
既婚・末子小学校4年生以上中学生以下	26.0	14.9
既婚・末子高校生以上	27.2	11.2
離別・死別	27.0	18.5
50～59歳 (2010年実施率)	22.1	8.3
60～69歳 (2010年実施率)	16.7	5.2
	4.6	0.6

■ 全体平均と比較して3ポイント以上高い項目

- 潜在需要の高い層は、18歳～29歳の若年層、および乳児・未就学児童を持つファミリー
- 若年層は特に、社会人より学生
- 年代が上がるにつれて、実施率・潜在需要ともに徐々に低下

※スキー・スノーボードについての意向率(非常にしてみたい、ややしてみたいと回答した率)から2010年実施率(実際にスキー・スノーボードに行った率)を引いた数値を潜在需要とし集計

有望な見込み顧客(ターゲット)

- スキーエリアへの集客増をはかるのに、有望な見込み顧客をターゲットと設定する
- 【ターゲット1】
 - ☞ 18歳—29歳の若年層
 - ☞ 社会人は現在の需要が大きい
 - ☞ 特に学生は潜在需要が大きい
- 【ターゲット2】
 - ☞ 「末子乳児」「末子幼児(未就学児)」「末子小1—3」のファミリー層、現在の需要も大きい
 - ☞ 過去実施率が高い層で、潜在需要も大きい。休眠層の掘り起こしが大切。

**ターゲットである
「若年層(18歳-29歳)」と
「ちびっこファミリー層」に
本調査を実施**

本調査

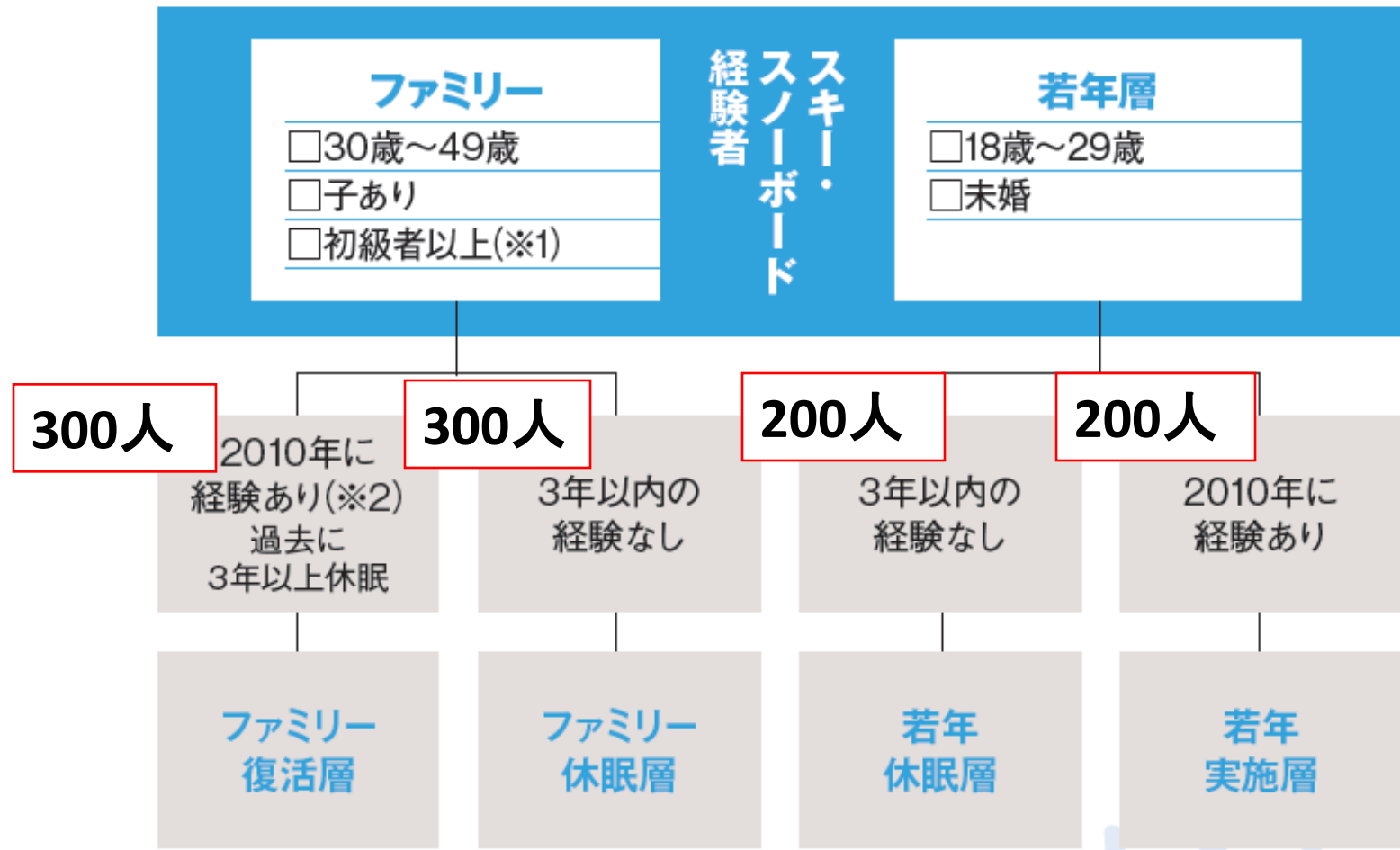
■ ターゲットとした「若年層」と「子連れファミリー層」1000件に対する調査

- ・ ファミリー層(30~49歳の既婚男女・3歳~小学生の子供がいる)
 - スキー・スノーボード復活者(300件)
 - » 末子年齢別(3区分:幼児(3歳~未就学児)/小学生1~3年/小学生4年以上中学生以下)で均等割付
 - » 昨年の経験あり、休眠期間3年以上、再開時期3年以内
 - » スキー又はスノーボードのレベルが初級者(整地された斜面を滑って・曲がれて・安全に停止できる)以上
 - スキー・スノーボード休眠者(300件)
 - » 末子年齢別(3区分:幼児(3歳~未就学児)/小学生1~3年/小学生4年以上中学生以下)で均等割付
 - » 3年以上前から経験なし
 - » スキー又はスノーボードのレベルが初級者(整地された斜面を滑って・曲がれて・安全に停止できる)以上
- ・ 若年層(18~29歳の未婚男女)
 - スキー・スノーボード実施者(200件)
 - » 職業別(学生/社会人の2区分)で均等割付
 - スキー・スノーボード休眠者(200件)
 - » 職業別(学生/社会人の2区分)で均等割付
 - » 3年以上前から経験なし

■ 調査手法:インターネット調査

■ 期間:2011年1月13日(水)~1月16日(金)

■ 本調査(若年層とファミリー対象に1000サンプル)



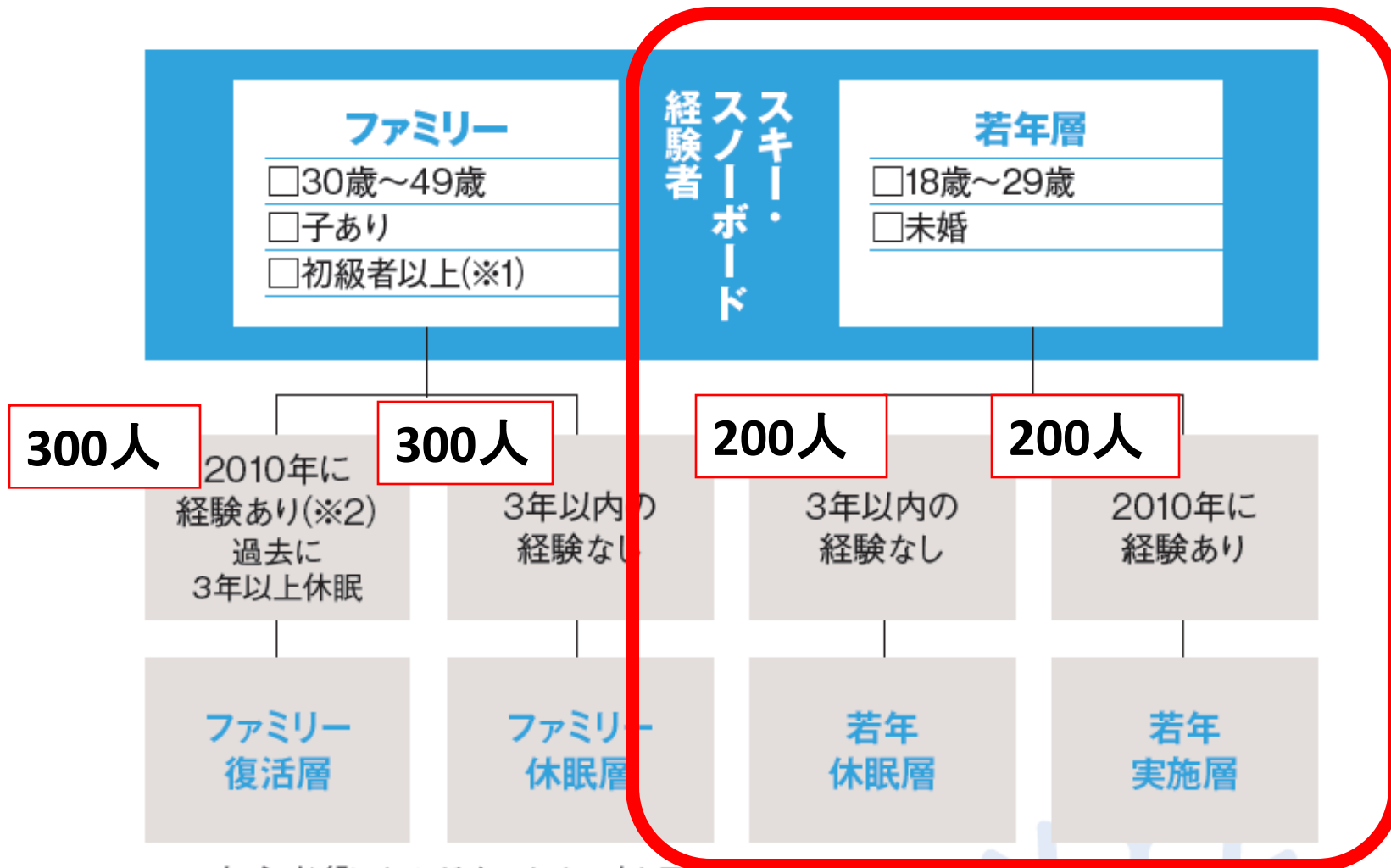
※1 初心者(「ほとんどすべれない」と回答した人)は復活の可能性が低いと判断し、本調査の対象からは除いた。

※2 「経験」とは、スキー・スノーボードを実施した経験のことを指す。

18歳—29歳若年層 編

18歳—29歳400人の本調査結果より
(実施層200、休眠層200)

■ 若年層(400サンプル)



※1 初心者(「ほとんどすべれない」と回答した人)は復活の可能性が低いと判断し、本調査の対象からは除いた。

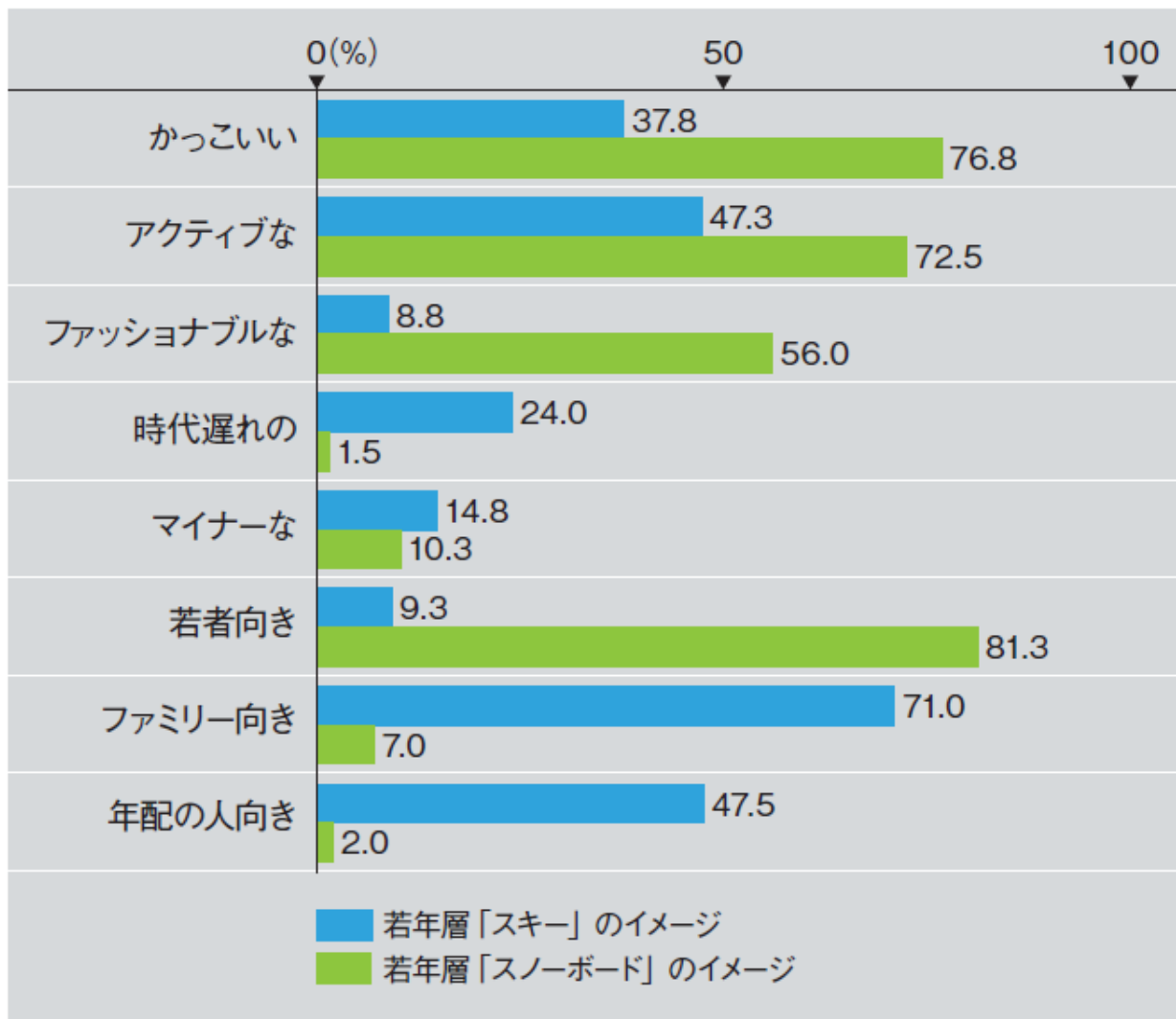
※2 「経験」とは、スキー・スノーボードを実施した経験のことを指す。

「若年層(18歳-29歳)」の スキー・スノーボードに対する イメージについて

■ スキーは「ファミリー向き」「年配の人向き」

■ スノーボードは「若者向き」「ファッショナブル」

(若年層全体/複数回答/n=400)

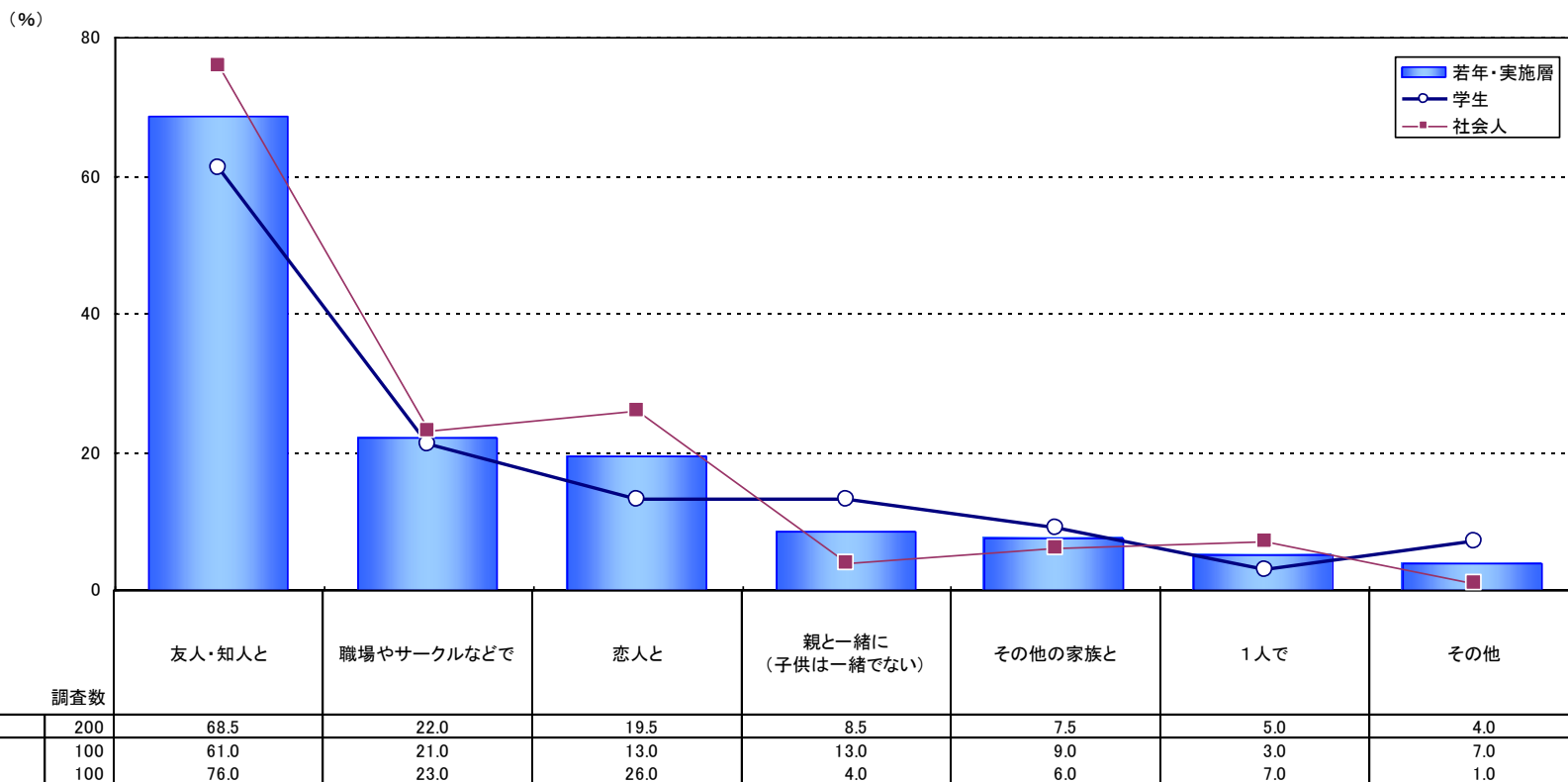


「若年層(18歳-29歳)」の スキー・スノーボードの同行者 について

■ 若年実施層の同行者は、友達グループ

- 1位「友人・知人と」、2位「職場やサークル」
- 学生では「親と一緒に」、社会人では「恋人と」が、それぞれ少し高くなる

■ 昨年(2010年)スキー場へ一緒に行った人(若年・実施層/複数回答)

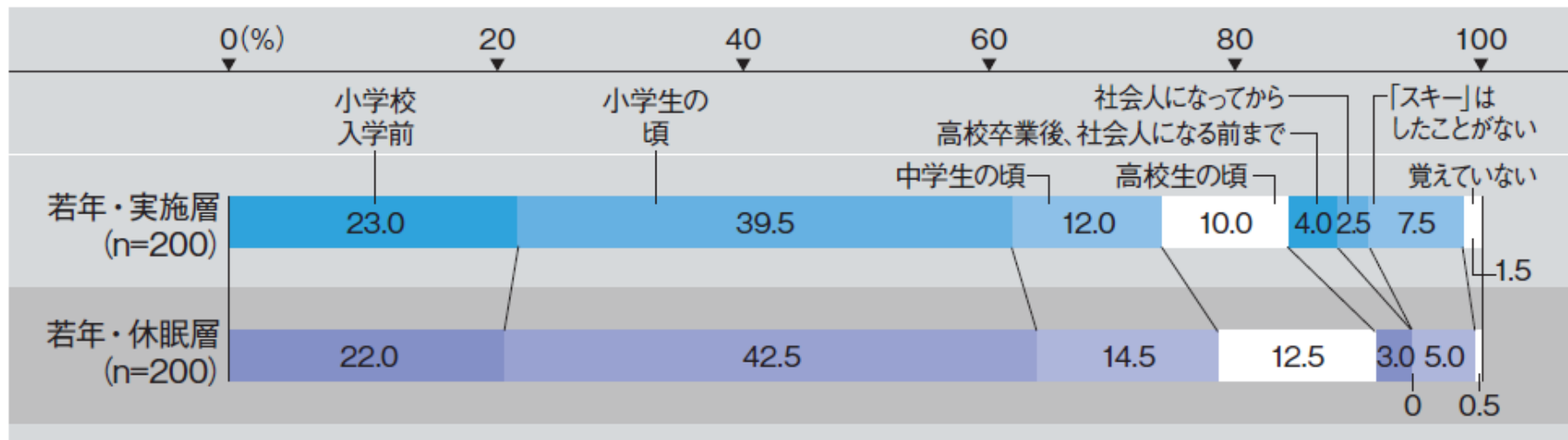


+10 : 『若年・実施層』より10ポイント以上高い数値に網掛け
 ※『若年・実施層』の降順ソート

「若年層(18歳-29歳)」の 実施層(200人)と休眠層(200人) に存在する違いの特徴

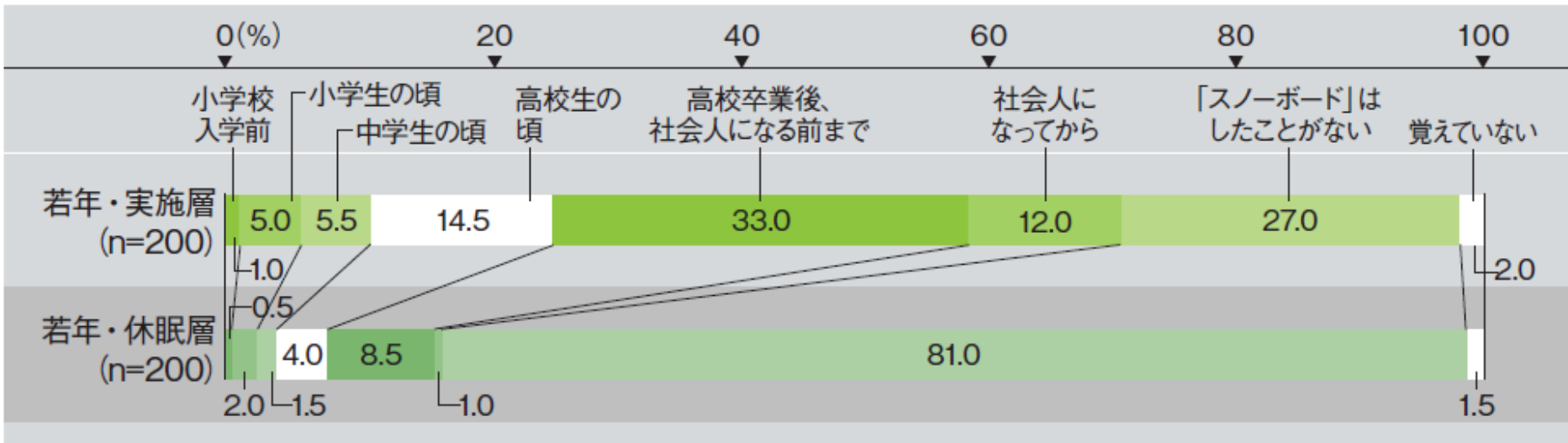
■ スキーを始めた時期は、「実施層」も「休眠層」も同じ時期。(小学校卒業までに、6割以上がデビュー済み)

図11 「スキー」を最初にした時期 (スキー経験者/単一回答)

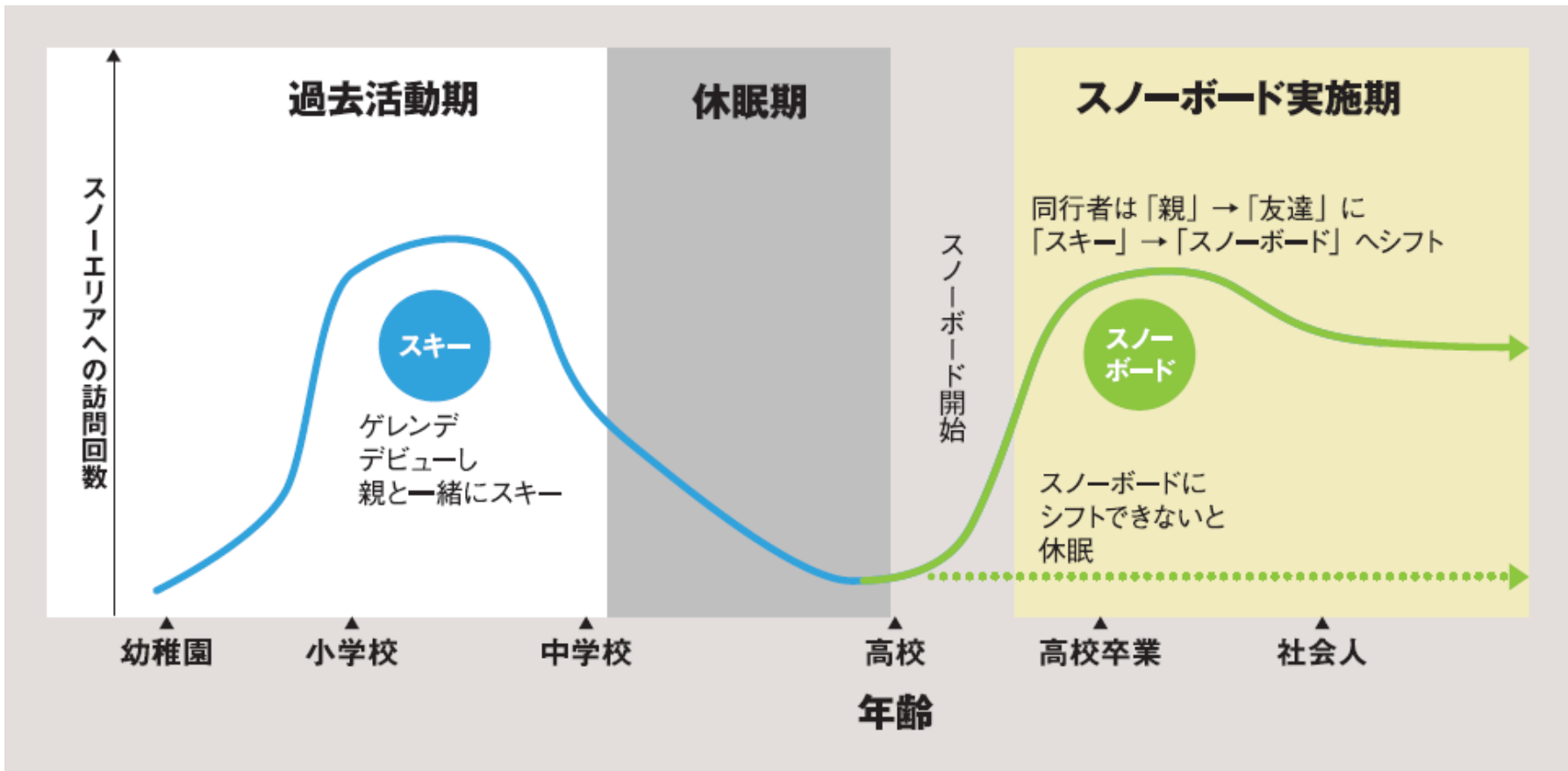


- スノーボードを始めた時期は、「実施層」は、社会人になるまでにボードデビュー
- 「休眠層」は8割以上が「スノーボードはしたことがない」

図12 「スノーボード」を最初にした時期 (スキー経験者/単一回答)



- **【仮説】**高校生以降、同行者が「親→友達」に変化し、「ファミリー向け・年配向け」のスキーがしにくくなるのでは。
- **ボードデビューできないと、そのまま休眠へ。**

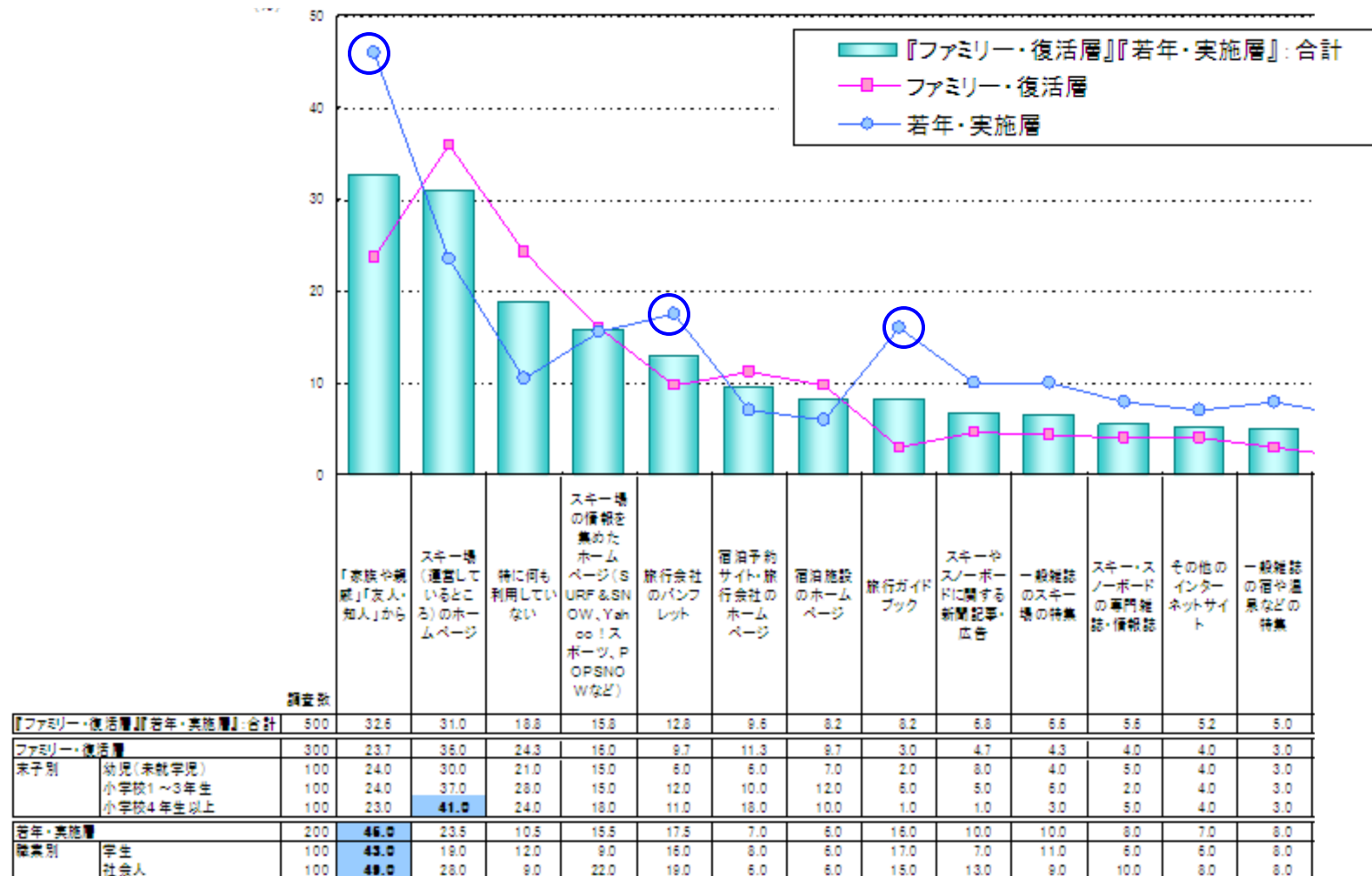


「若年層(18歳-29歳)」 を取り巻く、「仲間」「クチコミ」のチカラ

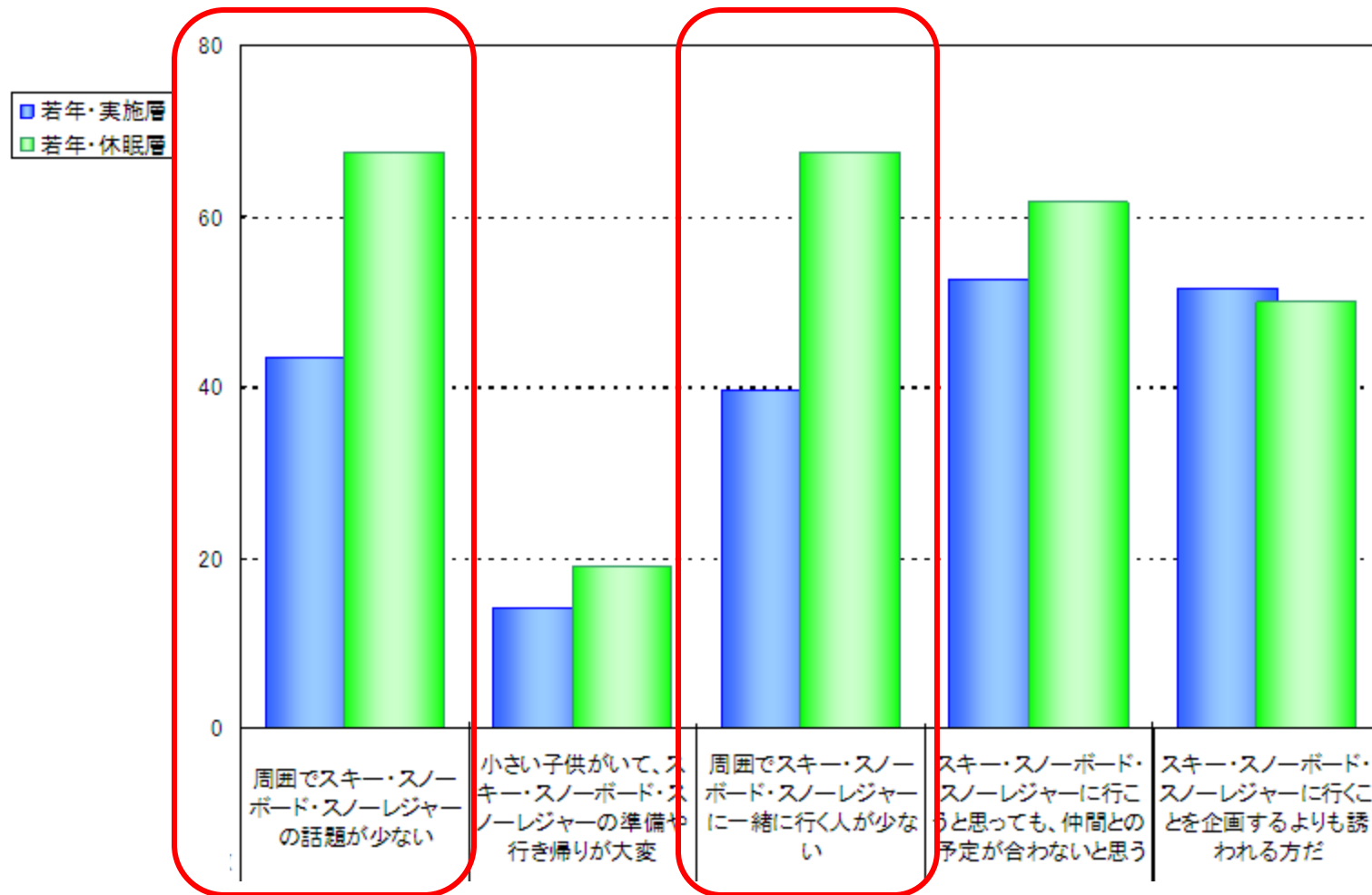
スキー場選びの情報源はクチコミ

- 特に若年実施層で50%近くがクチコミ
- 若年実施層は、紙媒体(パンフ、旅行ガイド)も

■昨年(2010年)スキー場を選ぶ際に利用した情報源(ファミリー復活、若年実施層/複数回答)



■ 休眠層は、実施層に比べて周囲で、スキーやスノーボードに行く人や話題が少ない

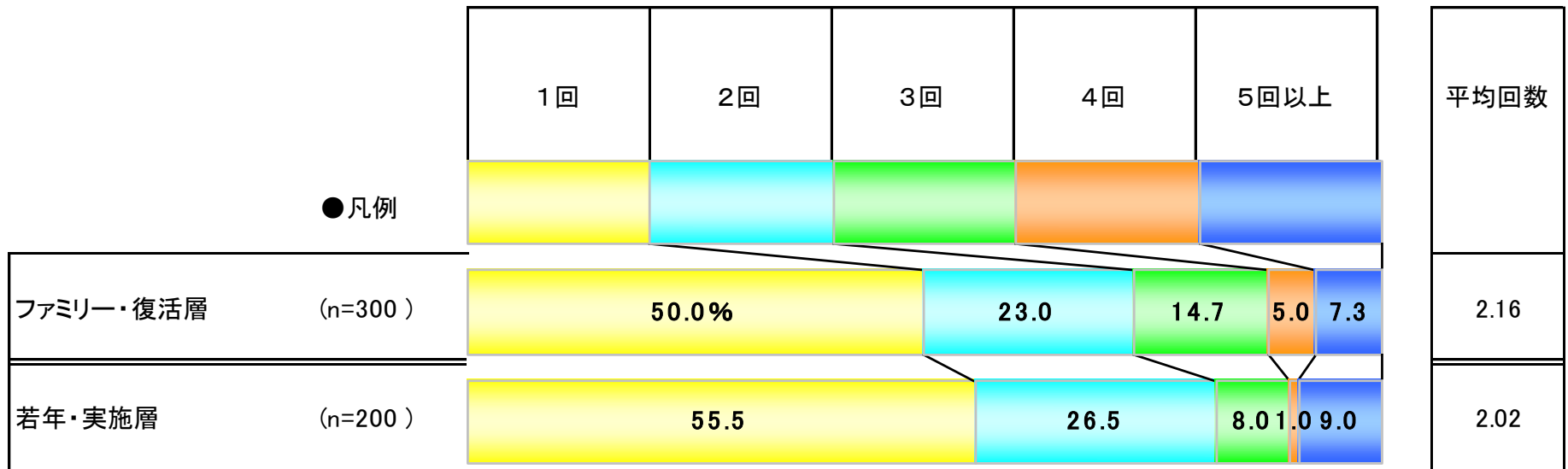


「若年層(18歳-29歳)」実施層の スキーエリア来訪データ (回数、宿泊、交通etc)

2010年のスキー場来訪回数、平均2回

- 若年実施層では、1回が最も多く56%
- 2回が27%。1回～2回で82%を占める

■昨年(2010年)スキー場に行った回数(ファミリー復活層、若年実施層/単一回答)

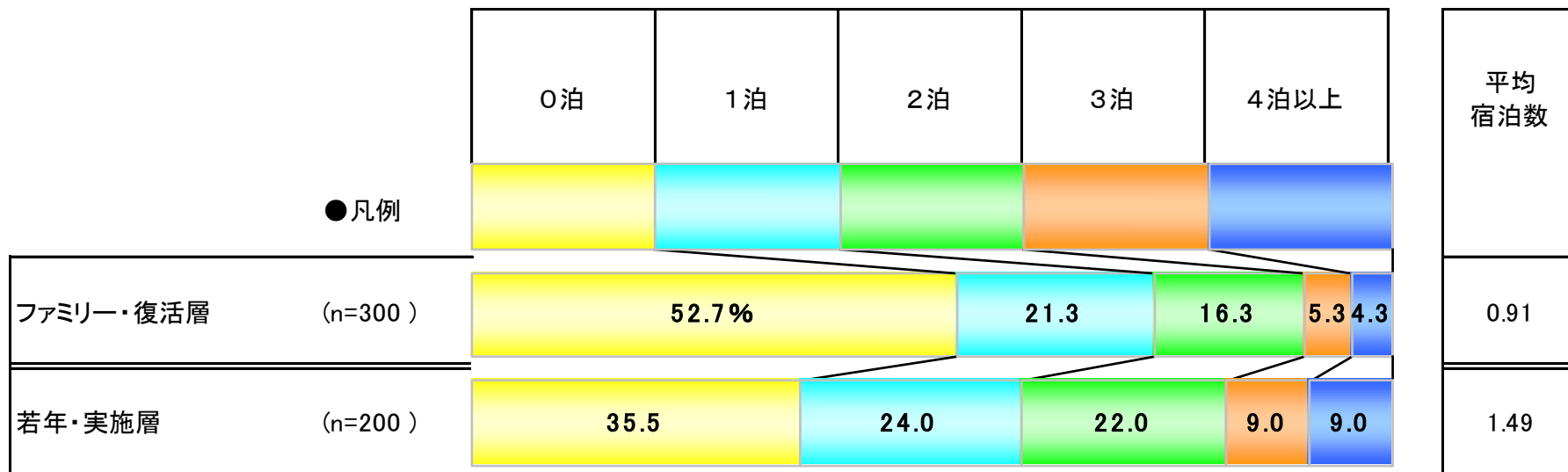


Q08

■ 若年実施層は、「宿泊」が多い

- ❏ ファミリー復活層は日帰りが53%
- ❏ 若年実施層の平均宿泊日数 1.49日泊
- ❏ ファミリー復活層の平均宿泊日数 0.9泊

■ 昨年(2010年)の「スキー」「スノーボード」目的での宿泊数(ファミリー復活層、若年実施層／単一回答)

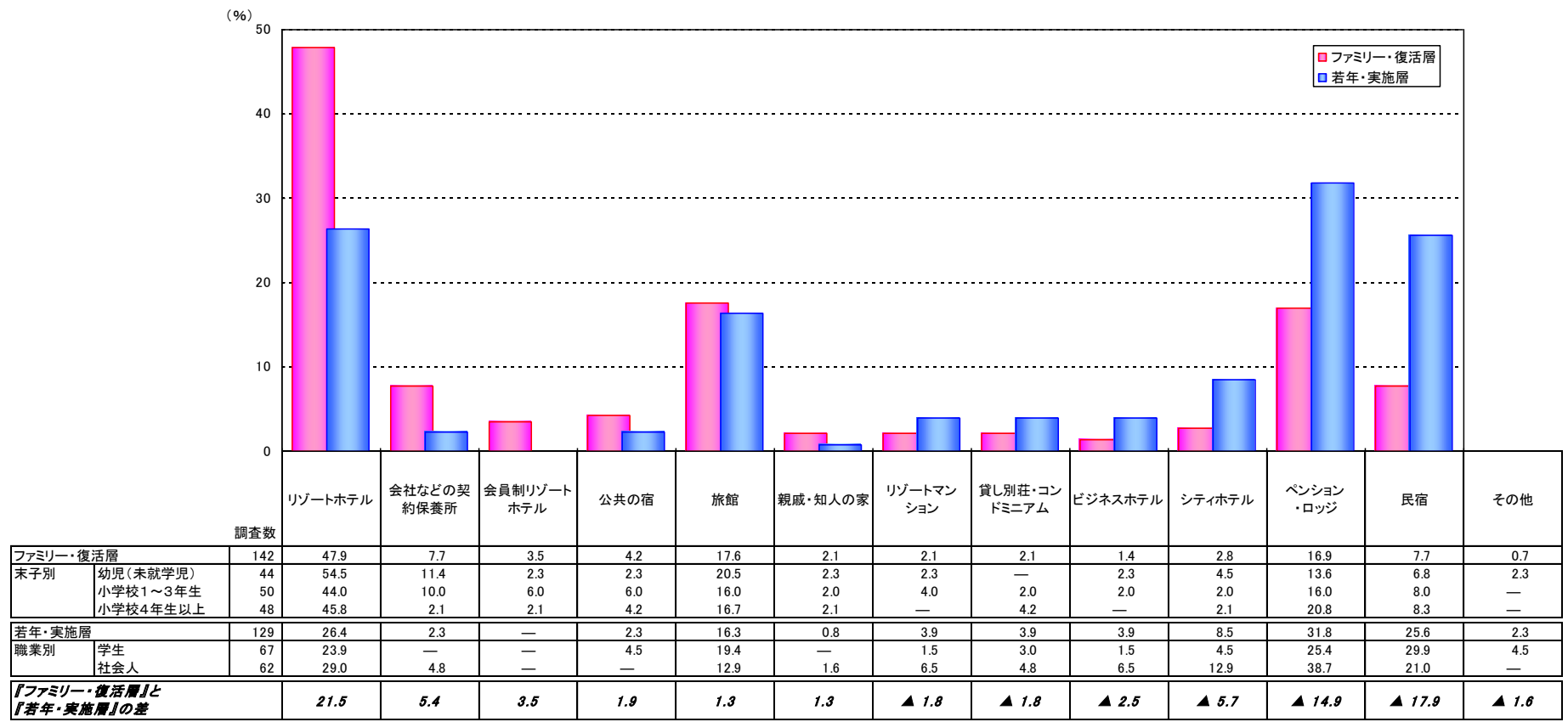


Q09

■ 若年層の宿泊は、「ペンション・ロッジ」「民宿」

- 学生は「民宿」がトップ、30%
- 社会人は「ペンション・ロッジ」がトップ、39%
- 「リゾートホテル」は学生24%、社会人29%

■ 昨年(2010年)宿泊した施設の種類(ファミリー復活、若年実施層・1泊以上した者/複数回答)

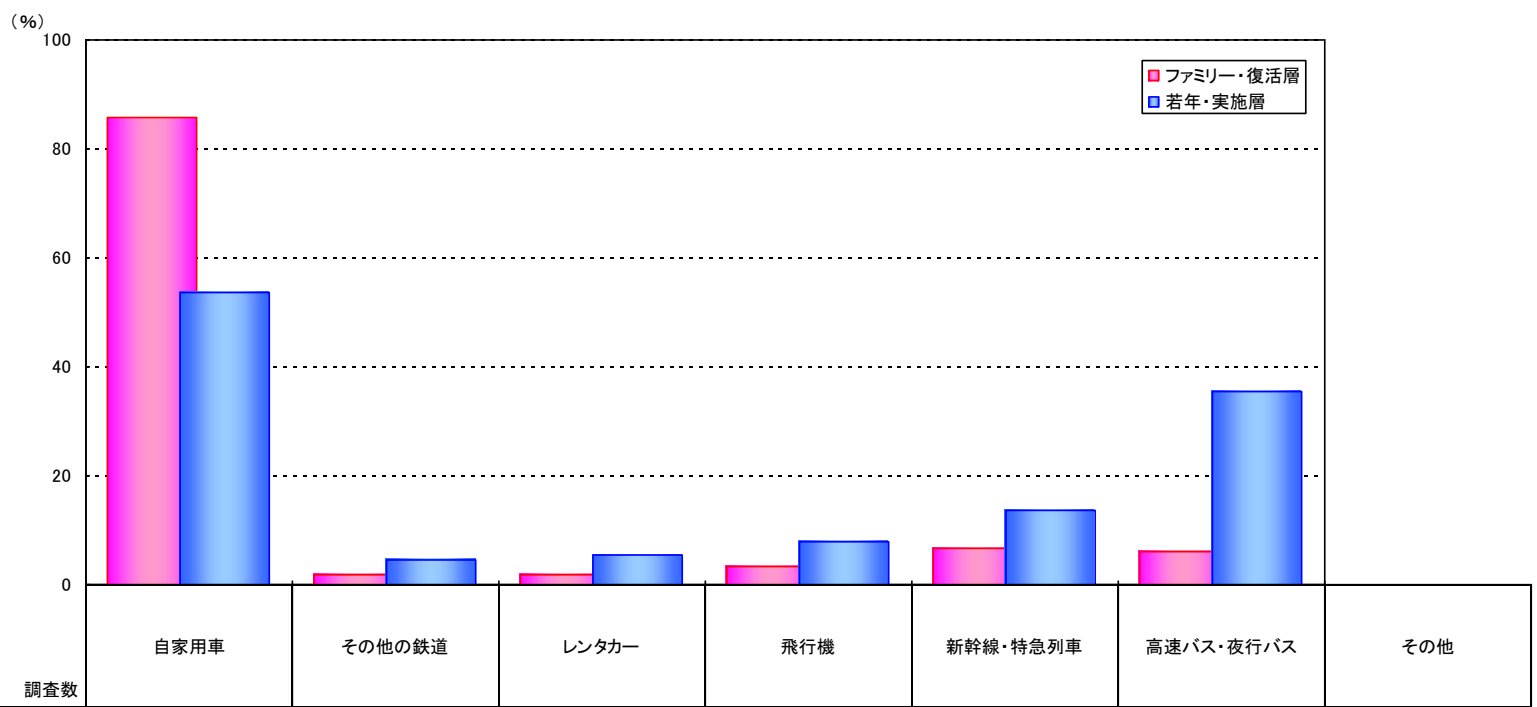


+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け
 ※『ファミリー・復活層』と『若年・実施層』の差の降順ソート

■ 若年実施層のゲレンデまでの交通手段は、 社会人は「自家用車」、学生は「夜行バス」

社会人は「新幹線・特急列車」も20%

■ 昨年(2010年)主に利用した交通手段(ファミリー復活、若年実施層/複数回答)



調査数		自家用車	その他の鉄道	レンタカー	飛行機	新幹線・特急列車	高速バス・夜行バス	その他
ファミリー・復活層	300	85.7	1.7	1.7	3.3	6.7	6.0	1.7
末子別								
幼児(未就学児)	100	89.0	3.0	2.0	5.0	5.0	2.0	1.0
小学校1~3年生	100	87.0	2.0	2.0	1.0	8.0	4.0	2.0
小学校4年生以上	100	81.0	—	1.0	4.0	7.0	12.0	2.0
若年・実施層	200	53.5	4.5	5.5	8.0	13.5	35.5	3.5
職業別								
学生	100	39.0	2.0	4.0	5.0	7.0	49.0	7.0
社会人	100	68.0	7.0	7.0	11.0	20.0	22.0	—
【ファミリー・復活層】と【若年・実施層】の差		32.2	-2.8	-3.8	-4.7	-6.8	-29.5	-1.8

+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け
 ※「ファミリー・復活層」と「若年・実施層」の差の降順ソート

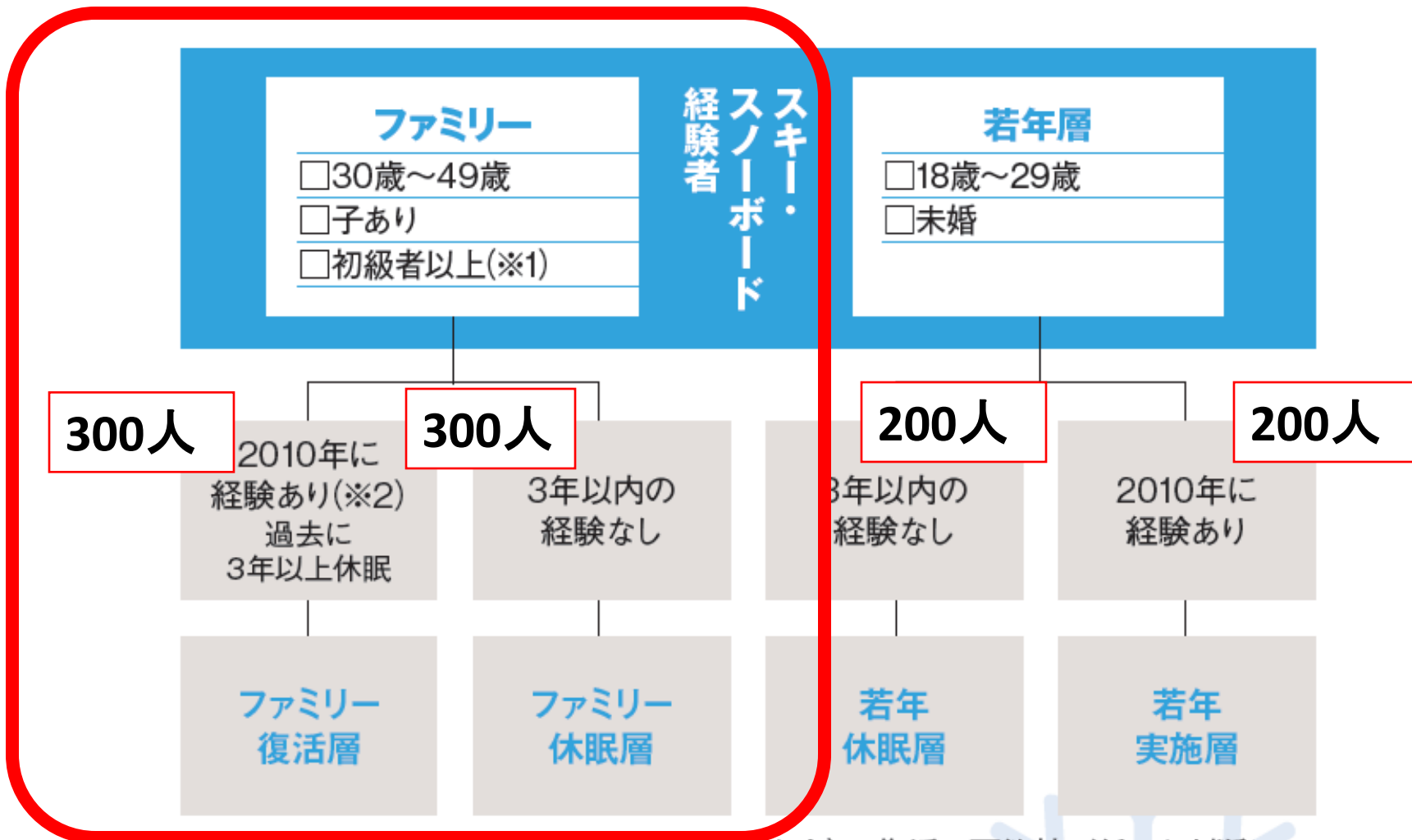
子連れファミリー 編

30～49歳の既婚男女・子供あり600人

(復活層300人、休眠層300人)

本調査結果より

■ ファミリー層(600サンプル)



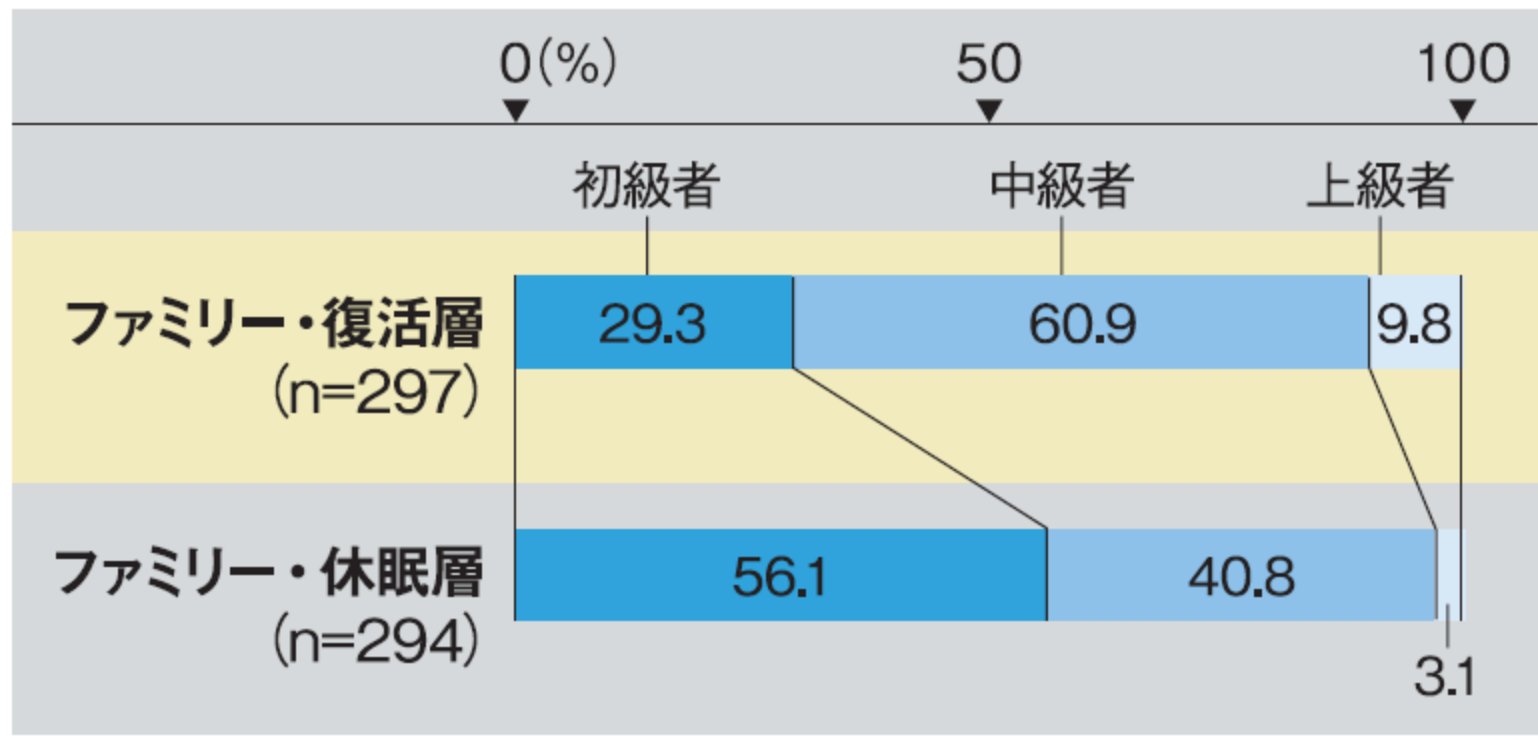
※1 初心者(「ほとんどすべれない」と回答した人)は復活の可能性が低いと判断し、本調査の対象からは除いた。

※2 「経験」とは、スキー・スノーボードを実施した経験のことを指す。

ファミリー復活層(300人)と ファミリー休眠層(300人) に存在する違いの特徴

■ 子連れでゲレンデ復活しているファミリーは、 親のスキースキルが中級以上が7割

図4 スキーの熟練度 (ファミリー層・スキー経験者／単一回答)



初級者は「整地された斜面を滑って・曲がれて・安全に停止できる」、
中級者は「転ばずにほとんどの斜面も滑って降りることができる」、
上級者は「急斜面、コブのある斜面でも周りの状況を把握しながらきれいに滑ることができる」と定義した。

■ ゲレンデに子連れで復活していないファミリーは初級者が多いから、「子供に教えるためのスキル」「自分や配偶者のケガ・体力」が不安

図4 子供と「スキー」や「スノーボード」「スノーレジャー(※)」に行く際の不安 (全体/複数回答)

			子供にスキー等を教えられるかが不安	自分のペースで楽しめるかが不安	子供がケガしないかが不安	自分や配偶者がケガしないかが不安	子供が体力的に大丈夫かが不安	自分や配偶者が体力的に大丈夫かが不安	子供がすぐ飽きるのではないかが不安	子供は数時間しか遊ばないのにコストが疑問
ファミリー復活層		全体 (n=300)	12.3	10.0	48.0	25.0	8.7	18.0	12.0	12.0
	末子年齢別	幼児 (未就学児) (n=100)	11.0	15.0	52.0	28.0	9.0	15.0	15.0	20.0
		小学校1~3年生 (n=100)	15.0	8.0	54.0	23.0	9.0	19.0	11.0	10.0
		小学校4年生以上 (n=100)	11.0	7.0	38.0	24.0	8.0	20.0	10.0	6.0
ファミリー休眠層		全体 (n=300)	20.3	11.0	52.7	32.0	11.7	28.3	15.3	21.0
	末子年齢別	幼児 (未就学児) (n=100)	23.0	12.0	63.0	29.0	18.0	28.0	29.0	23.0
		小学校1~3年生 (n=100)	20.0	11.0	52.0	39.0	12.0	26.0	13.0	26.0
		小学校4年生以上 (n=100)	18.0	10.0	43.0	28.0	5.0	31.0	4.0	14.0

■ 復活層全体と休眠層全体を比較して5ポイント以上上回った項目に網掛けをした

※スノーレジャーは雪あそび、そり、雪山散策トレッキングなど。

- ファミリー「復活層」は“**滑り**”に期待
- ファミリー「休眠層」は、**子供に雪山の自然を見せること、雪遊び・スノーレジャー**に期待

図6 子供と「スキー」や「スノーボード」「スノーレジャー(※)」に行く際の期待 (ファミリー層全体/複数回答)

			子供に雪山の景色や 景観を見せてあげたい	子供に「スキー」を やらせたい・上達させたい	子供に「スノーボード」を やらせたい・上達させたい	子供に「スノーレジャー(※)」 をやらせたい	子供がスキー等をやっている ところを見たい	子供と一緒に「スキー」 「スノーボード」を楽しみたい	子供に冬の自然を 体験させたい	家族みんなまで一体感を 感じたい	家族みんなまで 思い出づくりをしたい
ファミリー 復活層	全体 (n=300)		66.7	85.7	29.3	51.3	35.3	75.7	59.7	58.0	58.7
	末子 年齢別	幼児 (未就学児) (n=100)	74.0	82.0	39.0	67.0	36.0	78.0	59.0	59.0	63.0
		小学校1~3年生 (n=100)	64.0	89.0	26.0	58.0	44.0	76.0	68.0	60.0	64.0
		小学校4年生以上 (n=100)	62.0	86.0	23.0	29.0	26.0	73.0	52.0	55.0	49.0
ファミリー 休眠層	全体 (n=300)		73.7	63.3	26.7	64.7	26.0	54.0	63.7	49.7	57.0
	末子 年齢別	幼児 (未就学児) (n=100)	81.0	55.0	24.0	75.0	21.0	56.0	65.0	49.0	53.0
		小学校1~3年生 (n=100)	71.0	62.0	25.0	70.0	32.0	56.0	65.0	51.0	58.0
		小学校4年生以上 (n=100)	69.0	73.0	31.0	49.0	25.0	50.0	61.0	49.0	60.0

復活層全体と休眠層全体を比較して5ポイント以上上回った項目に網掛けをした

※スノーレジャーは雪あそび、そり、雪山散策トレッキングなど。

■ 温泉、子供専用ゲレンデ、そりコース、雪遊びなど、“**滑り**”以外の希望が強い**休眠層**

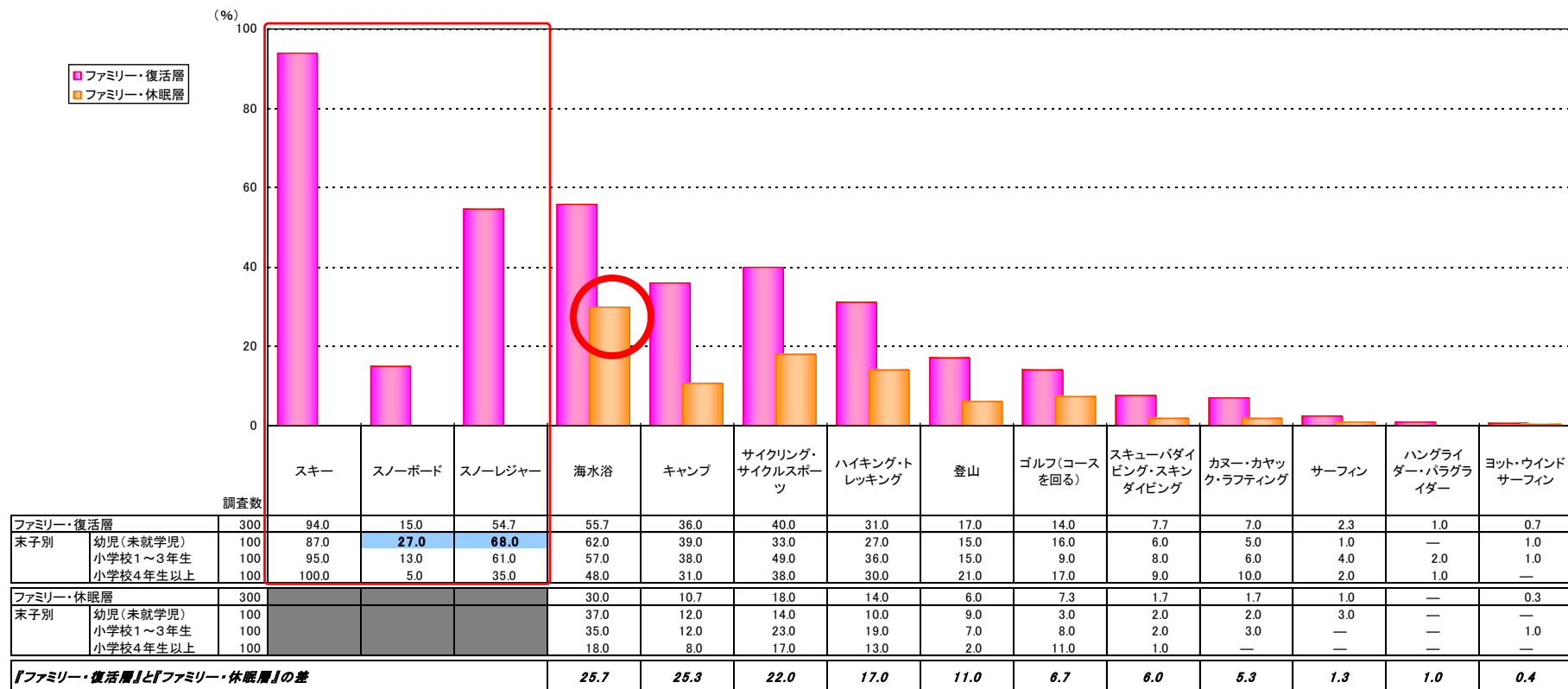
図7 ファミリー・休眠層が
スノーリゾートで体験して
みたいこと上位5項目
(ファミリー・休眠層/
複数回答/n=300)

温泉施設、 温水プールなどに入る	89.0%
子供専用ゲレンデで 楽しむ	75.7%
「そりコース」(雪上すべり台) で楽しむ	75.3%
ファミリー向けの 雪遊びをする	67.0%
一般のゲレンデで 一緒に滑って楽しむ	62.0%

■ ファミリー「復活層」は全体的にアクティブで、**休眠層は非アクティブ**だが、「**海水浴**」は**3割実施**

- 海水浴は良い概念・言葉（「海で水泳」ではNG）
- 末子未就学児童では海水浴実施、**37%**

■ 昨年（2010年）に経験したことがある「アウトドアレジャー」（ファミリー層／単一回答）



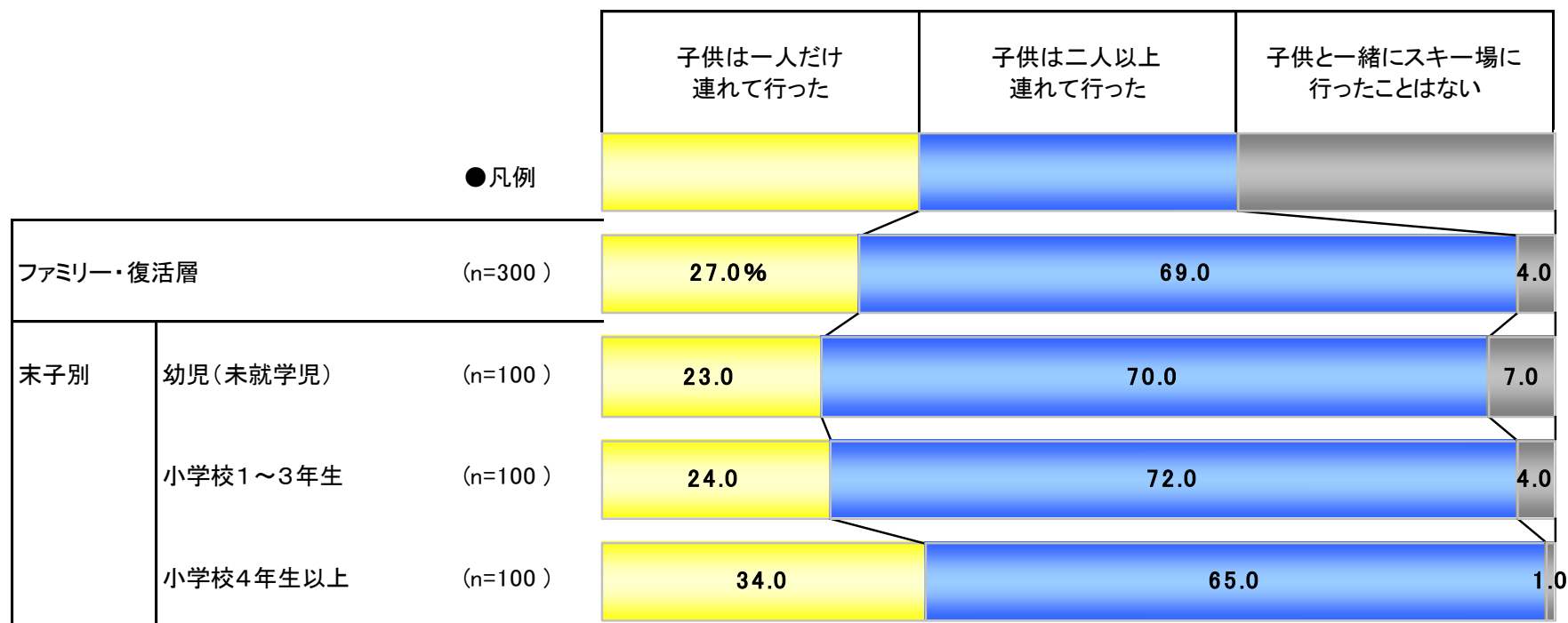
+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け

※【ファミリー・復活層】と【ファミリー・休眠層】の差の降順ソート

ファミリー復活層の 同行の子供の数 復活時の子供の年齢

■ ファミリー復活層の同行子供人数は、「2人以上」7割、「1人だけ」3割

■ 子供と一緒にスキー場へ行ったことがあるか(ファミリー復活層/単一回答)

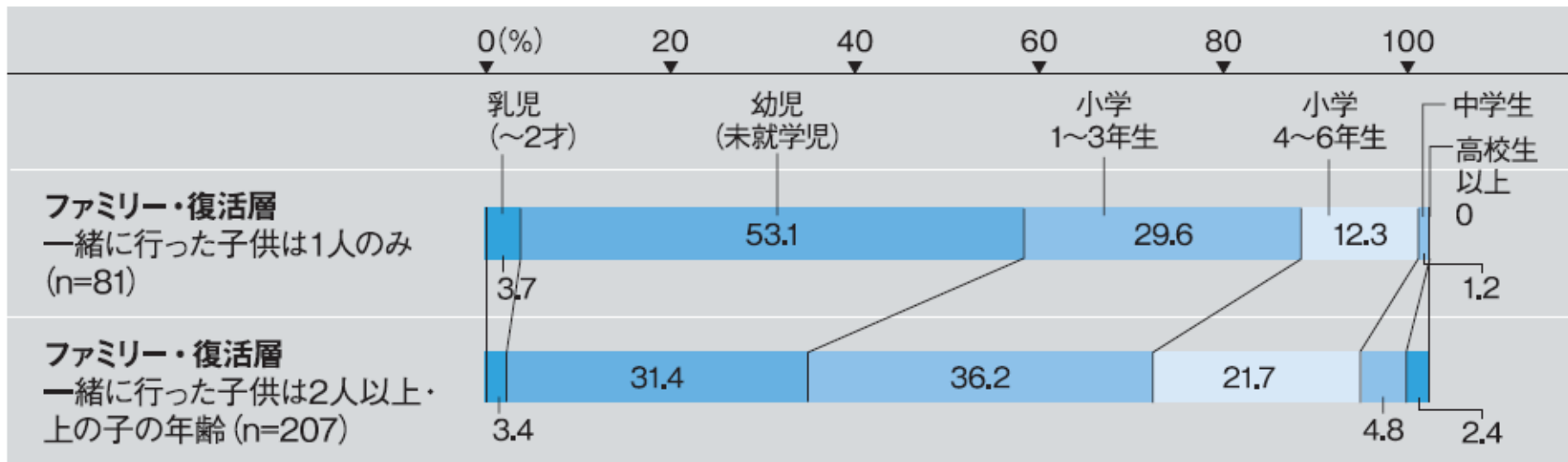


Q17

初めて子連れでゲレンデに行ったときの 子どもの年齢は、同行の子供人数により差異

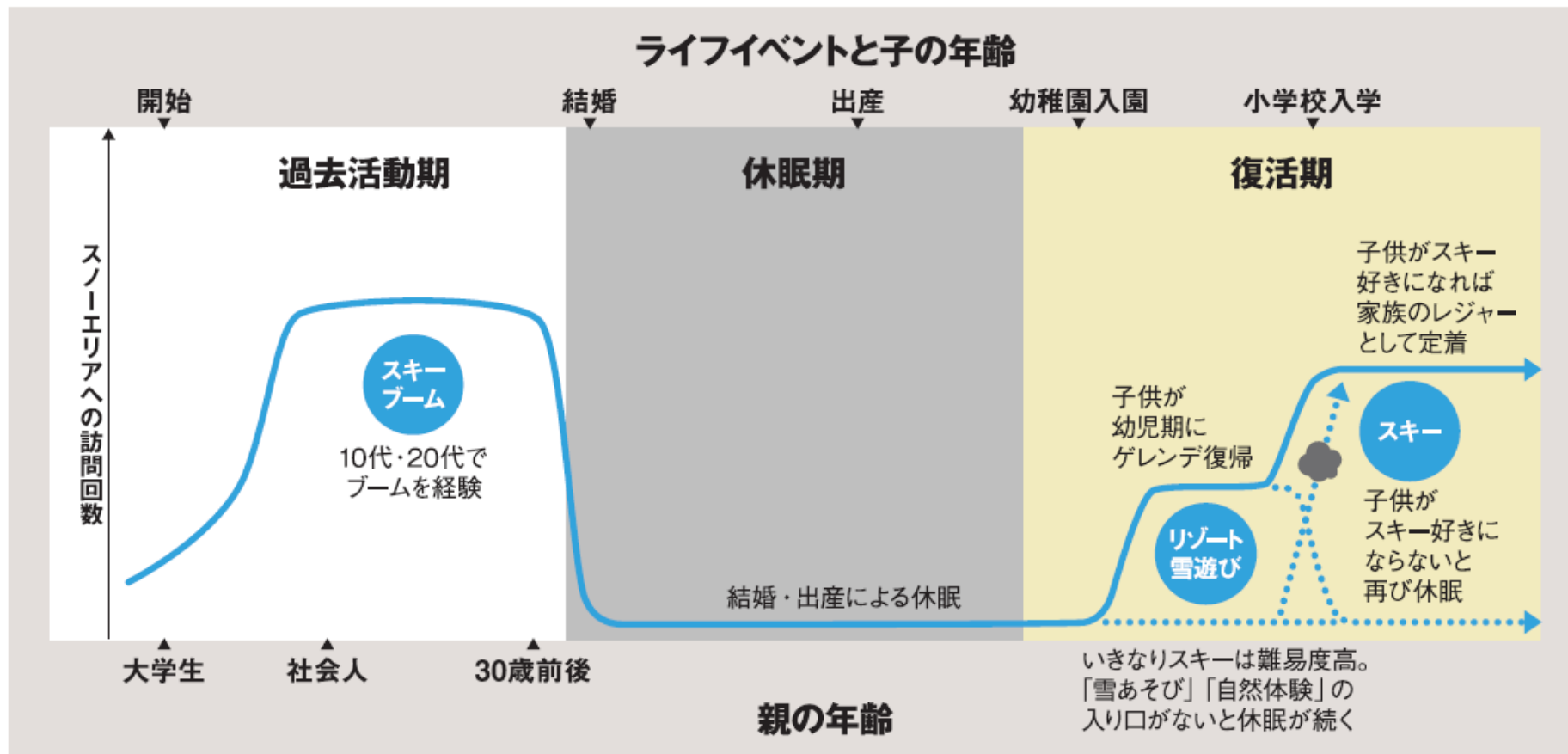
- 子供1人なら、**5割以上**が、「未就学児」のタイミングでスキー場デビュー（**デビュー最適年齢**）
- 子供2人以上だと、上の子「未就学児」でデビューできるのは**約3割**（下の子が影響では？）

図8 ファミリー復活層が初めて子供と一緒にスキー場に行った時の子供の歳
(ファミリー層・子供と一緒にスキー場に行ったことがある/単一回答)



- **【仮説】子連れスキーデビュー最適年齢は未就学児(3歳-6歳)だが、下の子が小さいと難しい**
- **滑りが苦手な休眠層に、子供に雪・自然体験のニーズのある未就学児のうちに“滑り”以外で雪山復活が鍵**

図10 ファミリーとスキーの関わり方 (イメージ図)

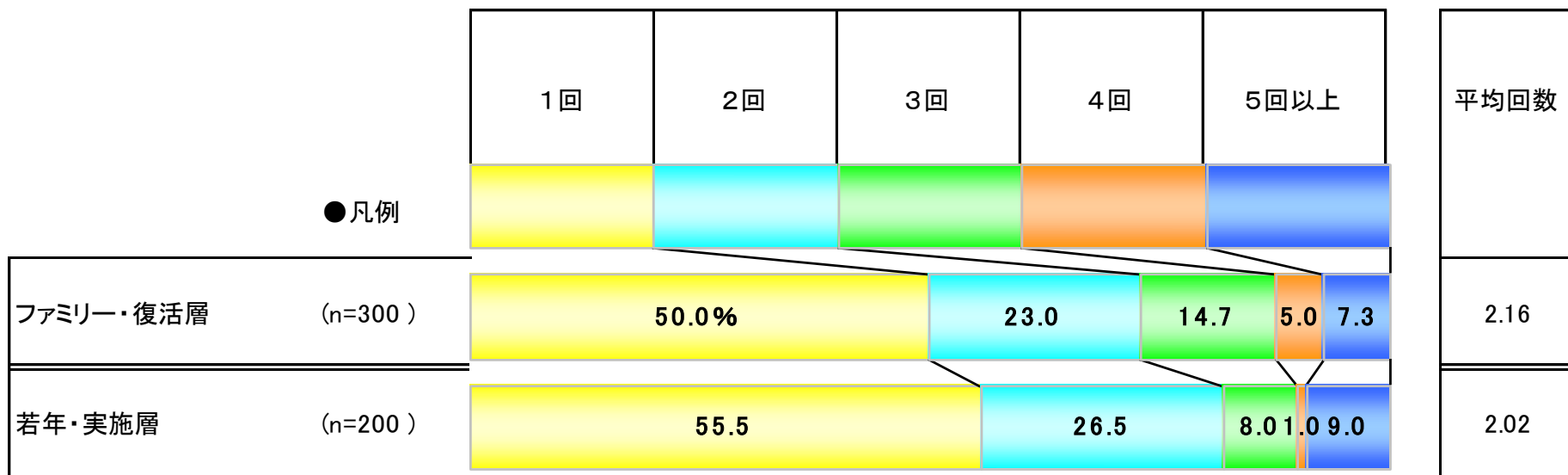


ファミリー復活層の スキーエリア来訪データ (回数、宿泊、交通etc)

2010年のスキー場来訪回数、平均2.2回

- ファミリー復活層では、1回が最も多く50%
- 2回が23%。1回～2回で73%を占める

■昨年(2010年)スキー場に行った回数(ファミリー復活層、若年実施層/単一回答)

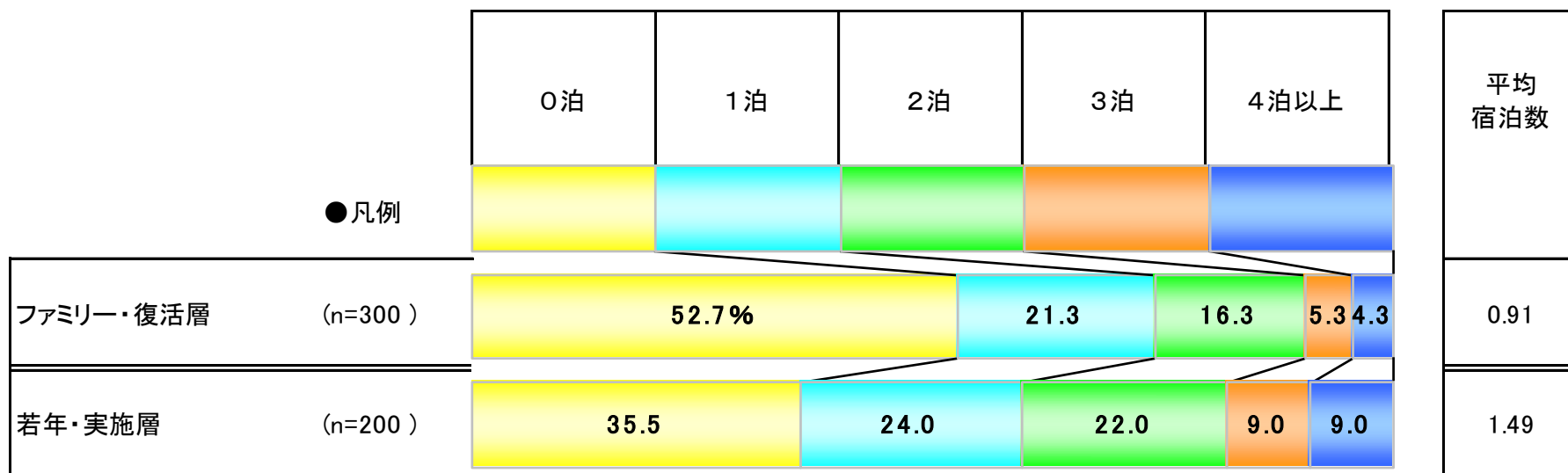


Q08

■ ファミリー復活層は、「日帰り」が多い

- ☞ ファミリー復活層は日帰りが53%
- ☞ ファミリー復活層の平均宿泊日数 0.9泊
 - ・【推察】子供の体力、平日への準備など考えると、ぎりぎりまで遊ぶのは難しい？

■ 昨年(2010年)の「スキー」「スノーボード」目的での宿泊数(ファミリー復活層、若年実施層／単一回答)

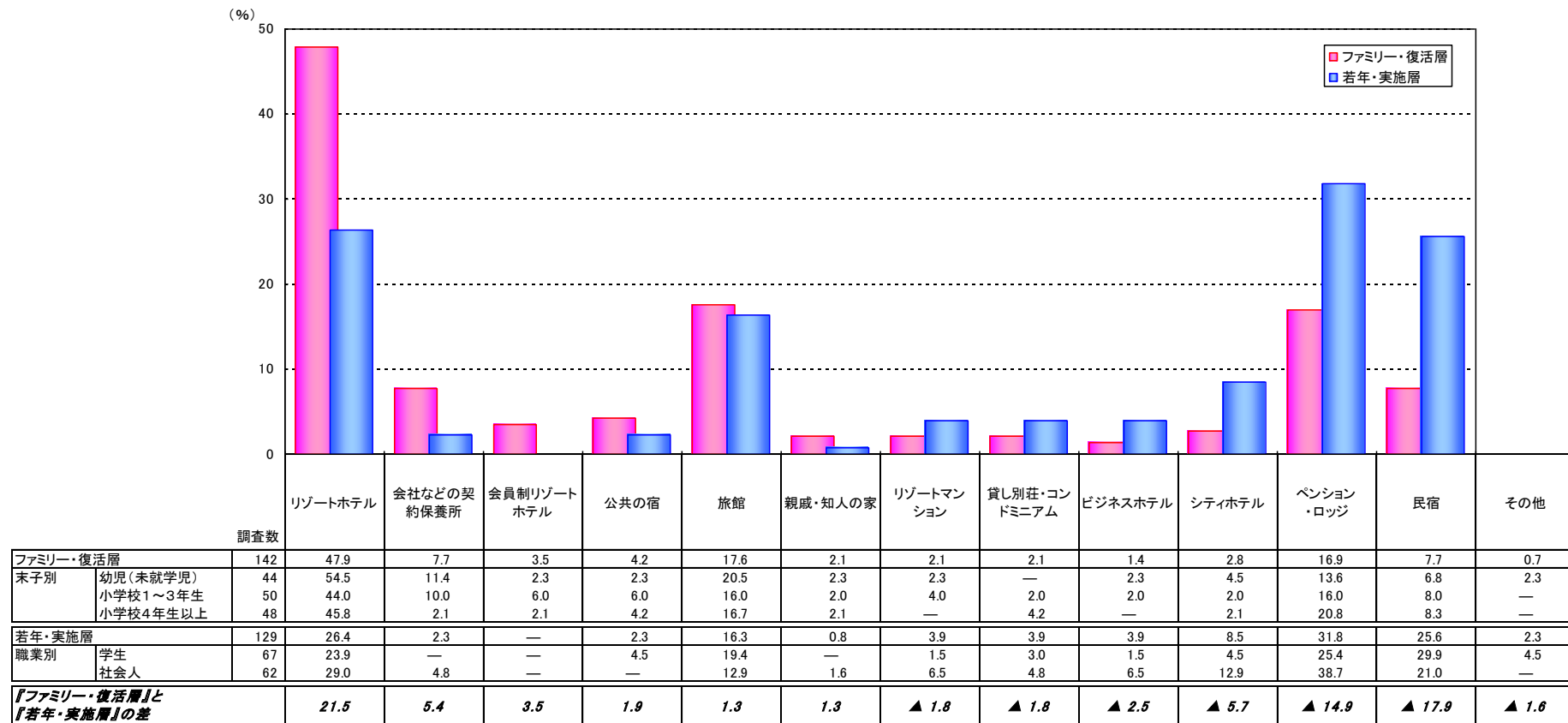


Q09

ファミリー復活層の宿泊は、「リゾートホテル」

- 末子年齢が小さいとリゾートホテルUP(55%)
- 旅館は20%、末子小学4年以上ではペンション・ロッジUPで21%

■昨年(2010年)宿泊した施設の種類(ファミリー復活、若年実施層・1泊以上した者/複数回答)

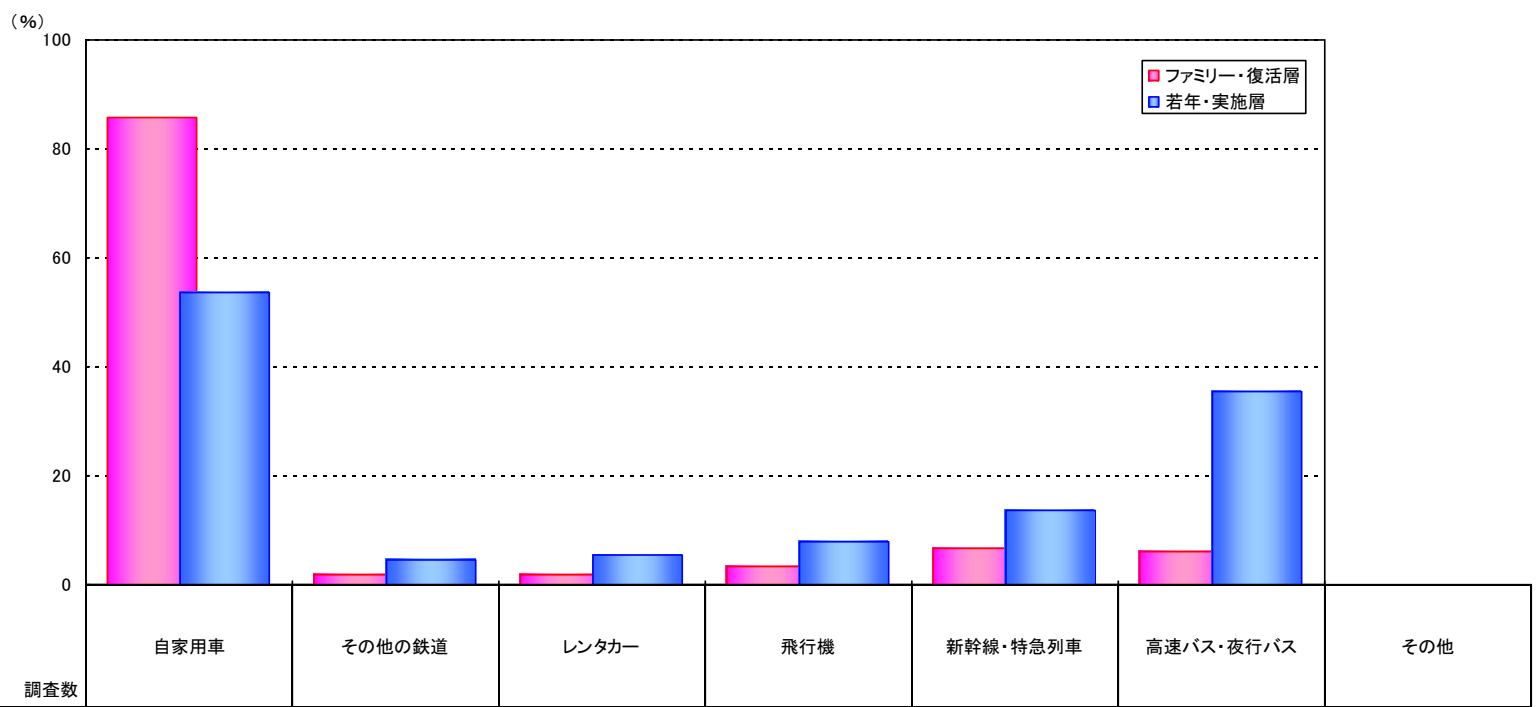


+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け
 ※『ファミリー・復活層』と『若年・実施層』の差の降順ソート

ファミリー復活層の交通手段は「自家用車」

全体で86%と高いが、末子年齢が低いほどさらに高くなり、未就学児では89%

■昨年(2010年)主に利用した交通手段(ファミリー復活、若年実施層/複数回答)



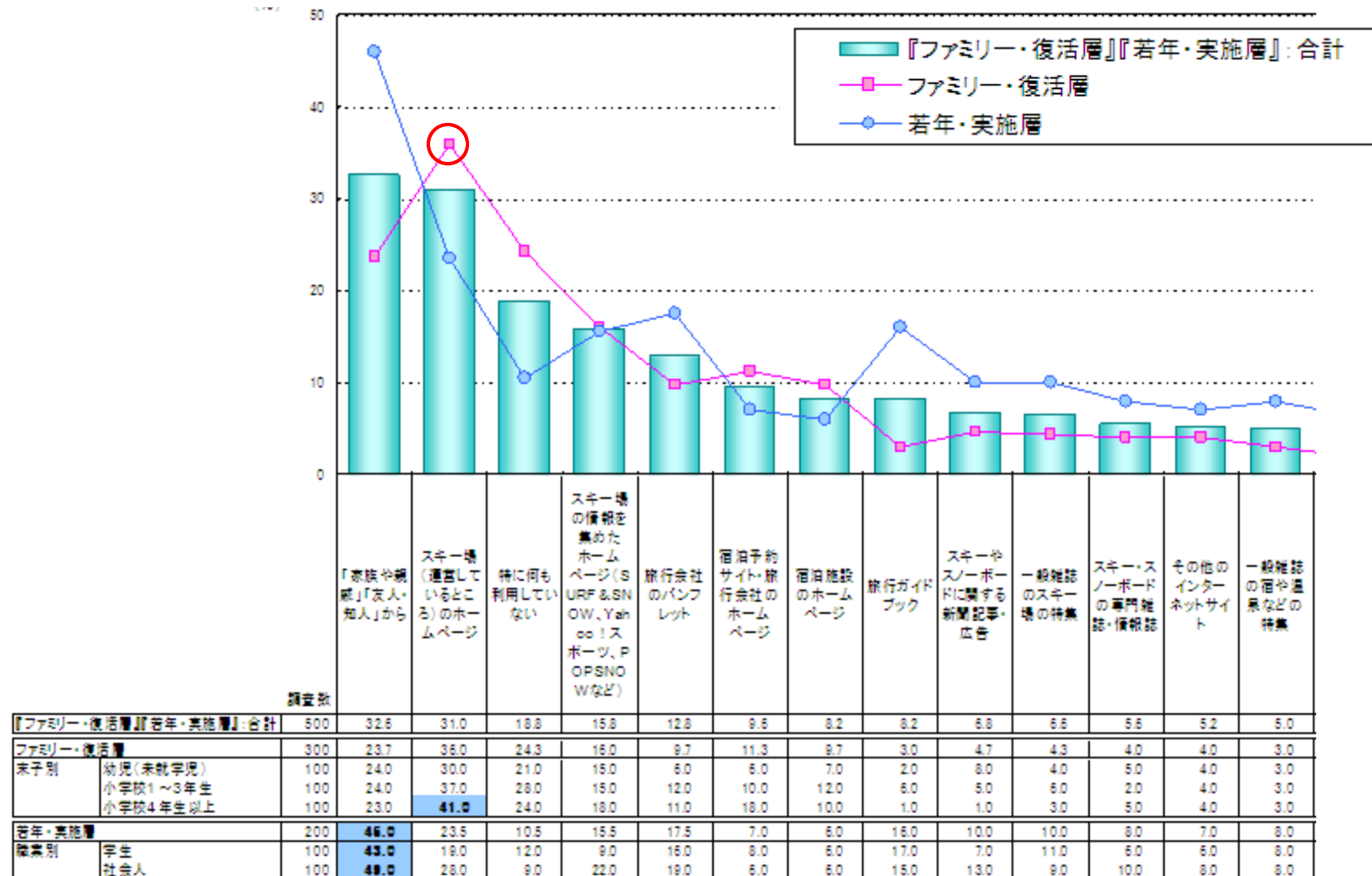
調査数		自家用車	その他の鉄道	レンタカー	飛行機	新幹線・特急列車	高速バス・夜行バス	その他
ファミリー・復活層	300	85.7	1.7	1.7	3.3	6.7	6.0	1.7
末子別								
幼児(未就学児)	100	89.0	3.0	2.0	5.0	5.0	2.0	1.0
小学校1~3年生	100	87.0	2.0	2.0	1.0	8.0	4.0	2.0
小学校4年生以上	100	81.0	—	1.0	4.0	7.0	12.0	2.0
若年・実施層	200	53.5	4.5	5.5	8.0	13.5	35.5	3.5
職業別								
学生	100	39.0	2.0	4.0	5.0	7.0	49.0	7.0
社会人	100	68.0	7.0	7.0	11.0	20.0	22.0	—
【ファミリー・復活層】と【若年・実施層】の差		32.2	-2.8	-3.8	-4.7	-6.8	-29.5	-1.8

+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け
 ※「ファミリー・復活層」と「若年・実施層」の差の降順ソート

スキー場選びの情報源はスキー場HP

若い時代のスキーブーム時に行ったスキー場の名前を検索してスキー場HPを見るのでは？

■昨年(2010年)スキー場を選ぶ際に利用した情報源(ファミリー復活、若年実施層/複数回答)



■ ファミリー層全体に関心が高いサービス

- 「温泉」、自家用車利用の高さを反映して「優先駐車場」、子供と一緒にの食事「ファーストフードやコンビニ」、連絡をとりあう「携帯電話の電波」

図9 ファミリーに関心が高い
スキー場の新サービス
上位5項目
(ファミリー層全体/
複数回答/n=600)

場内や併設の 24時間の温泉施設	80.5%
家族スキーヤー 優先駐車場	79.0%
場内や併設のファースト フード店やコンビニ	67.7%
家族限定の イベント参加	64.5%
ほぼすべての場所で携帯 電波が入ること	64.3%

**なぜ、若年層ターゲットについて
考えることが重要なのか？**

若者は、スキー場のメイン顧客

- 2010年スキー実施率は、「ちびっこファミリー層」に次いで、2番目に、若年層の実施率が高い
- 2010年スノーボード実施率は、若年層が最も高い
- 潜在需要は、スキー・スノーボード両方において、学生が一番高い

**若年層は、現在、スキー場に来ている
メイン顧客層**

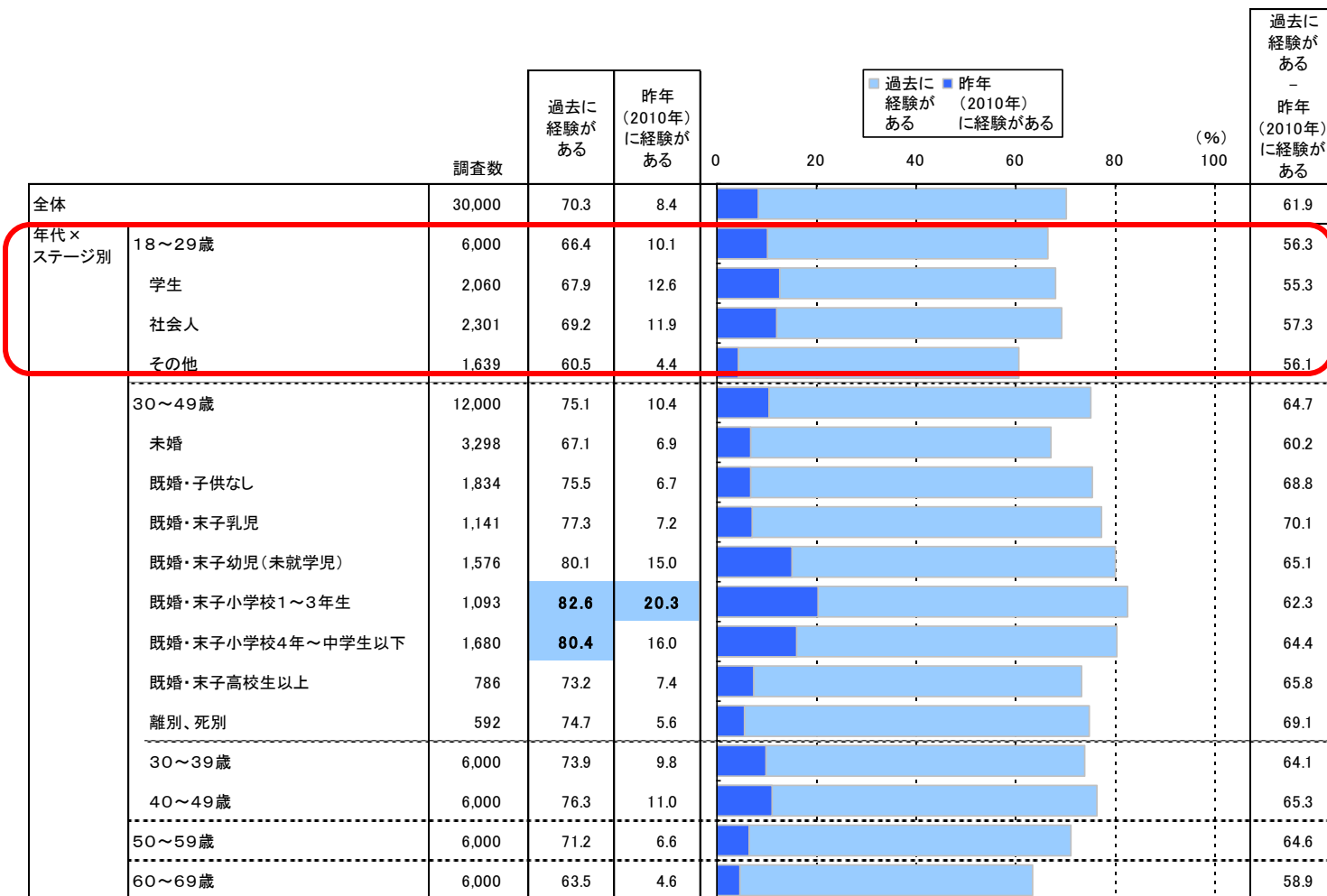
【再掲データ】

・『スキー』昨年実施率(青の棒グラフ)が、高いのは

①「末子小1-3」(20%)②「末子小4~中学生」(16%)③末子幼児(15%)

④「18歳-29歳(学生)」(13%)⑤「18歳-29歳(社会人)」(12%)の順。

他ステージは、10%以下となる。未婚、既婚子なし、子供高校生以上では低い。

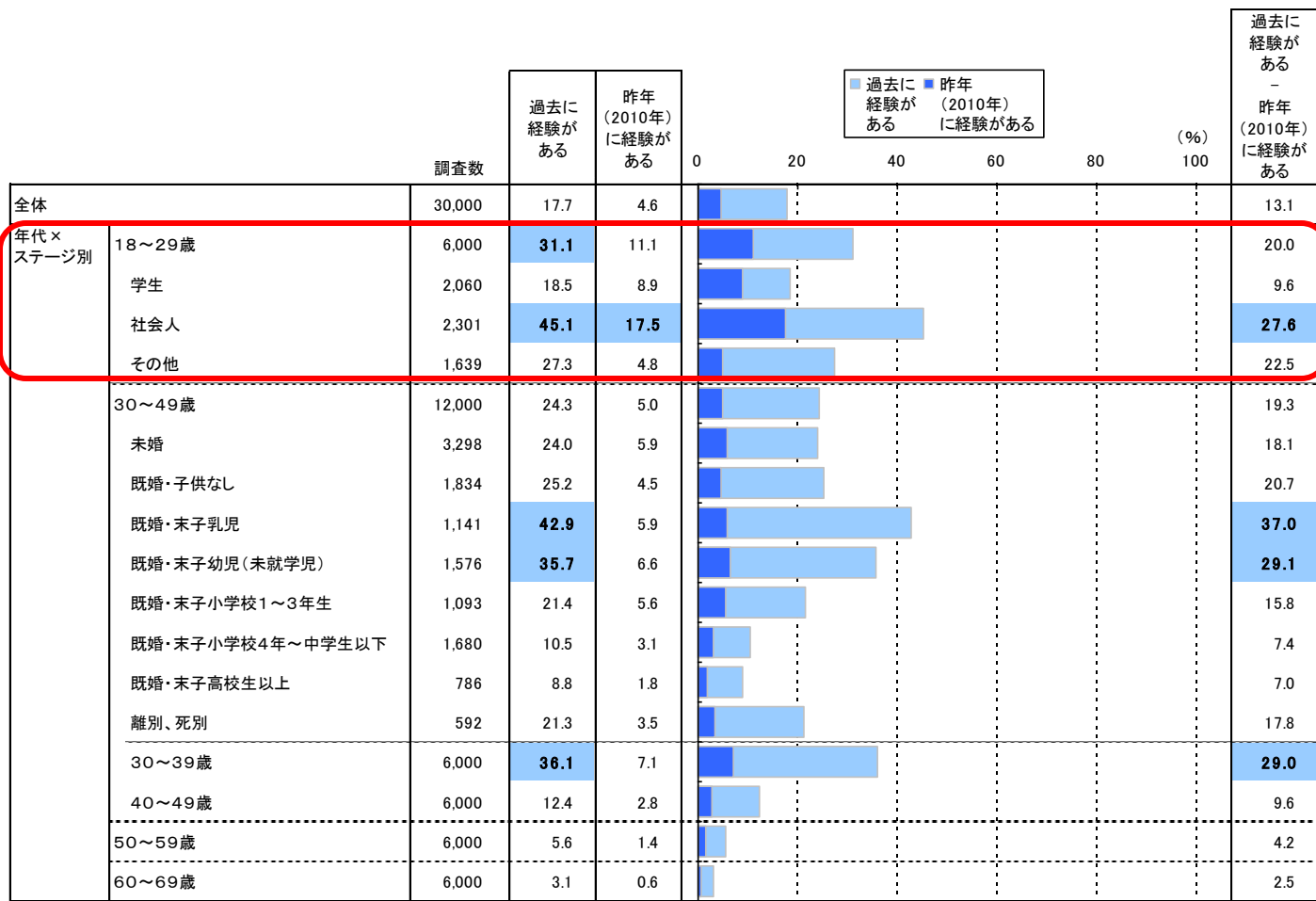


+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け

SC.S01-S02-01

【再掲データ】

・『スノーボード』2010年実施率(青色の棒グラフ)が最も高いのは18歳-29歳の「社会人」で、17%。続いて、18-29歳の「学生」で9%。



+10 : 各全体値より10ポイント以上高い数値に網掛け

SC_S01-S02-02

	潜在需要 (%)	
	スキー	スノーボード
全体 (n=30000)	25.4	17.0
18歳～29歳	34.3	33.4
(2010年実施率)	10.1	11.1
学生	40.4	37.2
社会人	31.1	30.7
その他	31.2	32.5
30～49歳	26.8	19.1
(2010年実施率)	10.4	5.0
未婚	22.7	17.8
既婚・子供なし	25.4	16.3
既婚・末子乳児	36.2	30.3
既婚・末子幼児 (未就学児)	29.7	24.9
既婚・末子小学校1～3年生	27.7	20.6
既婚・末子小学校4年生以上中学生以下	26.0	14.9
既婚・末子高校生以上	27.2	11.2
離別・死別	27.0	18.5
50～59歳	22.1	8.3
(2010年実施率)	6.6	1.4
60～69歳	16.7	5.2
(2010年実施率)	4.6	0.6

■ 全体平均と比較して3ポイント以上高い項目

- **実施率だけでなく、潜在需要も高い若年層**
- **若年層は特に、社会人より学生**
- **乳児連れ家族のように明確なハードルは存在しないはずだが「興味は強いが、実際にゲレンデに来ていない」人が多い**

※スキー・スノーボードについての意向率(非常にしてみたい、ややしてみたいと回答した率)から2010年実施率(実際にスキー・スノーボードに行った率)を引いた数値を潜在需要とし集計

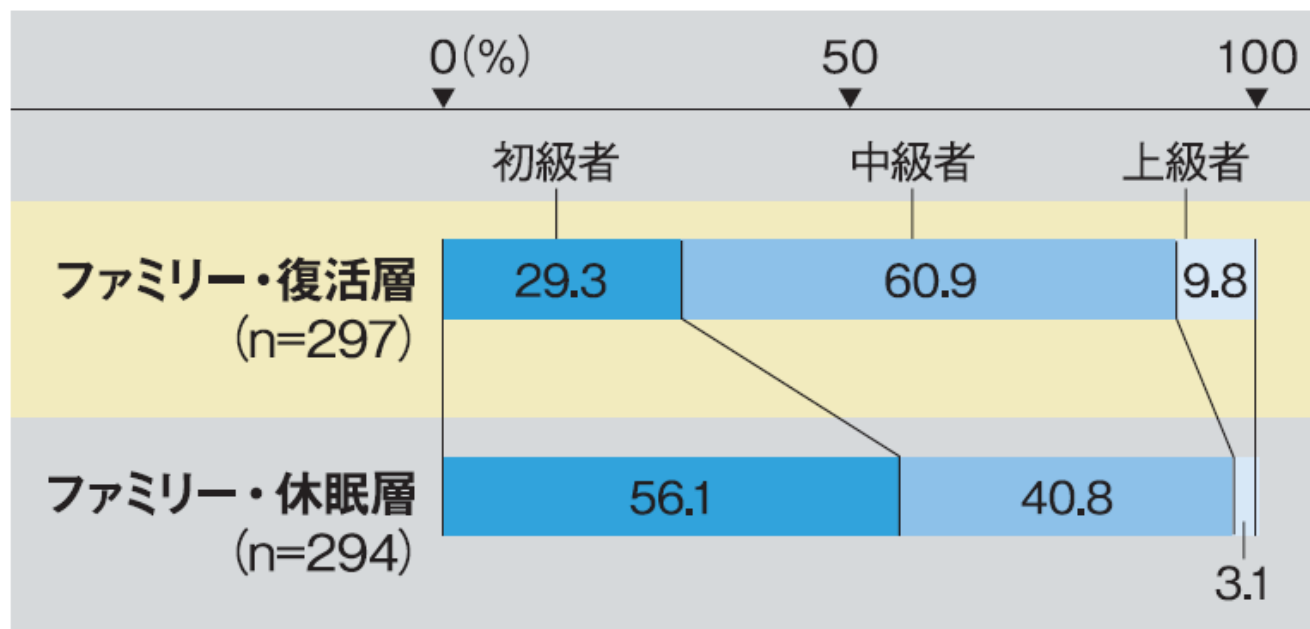
若者需要とファミリー需要の関係

- 現在、最もスキーをしているのは「ちびっこファミリー層」
 - 小1 - 小3 ファミリー層で昨年実施 20%
- 「ちびっこファミリー層」のパパ・ママはスキーブーム時代（1990-95）に10代・20代の若者だった
- この層は、過去スキー実施率が日本人の中で、最も高い層でもある（83%）

スキーブーム時代に10代・20代の若者で、非常にスキーをやっていた人々が今、親になってファミリー需要になった

ファミリー復活層は スキーの上手なパパママ

図4 スキーの熟練度 (ファミリー層・スキー経験者／単一回答)



初級者は「整地された斜面を滑って・曲がれて・安全に停止できる」、
 中級者は「転ばずにほとんどの斜面も滑って降りることができる」、
 上級者は「急斜面、コブのある斜面でも周りの状況を把握しながらきれいに滑ることができる」と定義した。

導かれる結論

- 今のスキーファミリー需要を支えているのは、若者時代とスキーブームが重なり、そのころたくさんゲレンデに通った人々。
- その中でも、スキースキルの高い人々は親になると、子供を連れてスキー場に復活するが、スキースキルが低いと、子連れで戻ってこない

今の若者が、若者のうちに多く楽しみある程度、技術も高くならないと、親になっても子連れで雪山に来ない



若者をターゲットにした
施策を考えることは
「現在の若者需要」を生み、
「近い未来のファミリー需要」を
生み出すことにつながります

そして、もう1つ
スキー業界・市場の構造が
あります



スキー業界の構造 ～エントリー依存型～

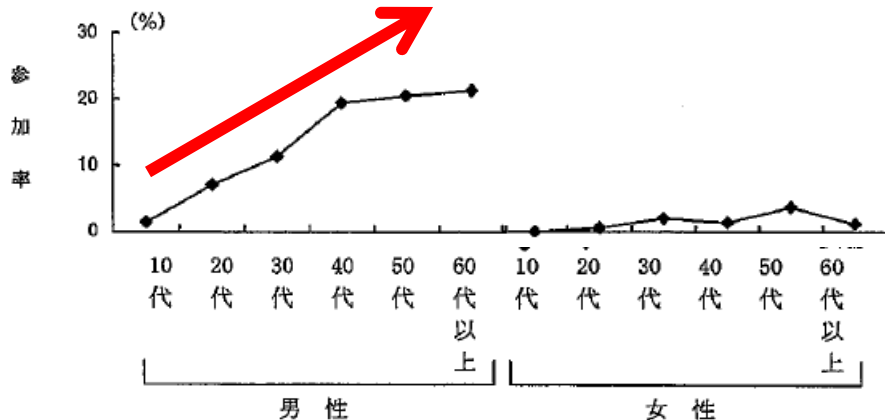
スキーは年代途中参入の少ないレジャー

- ゴルフは「40代で初めてゴルフコースデビュー」が存在する
- スキーは「40代で初めてスキーデビュー」がほとんど存在しない

ゴルフ

余暇活動参加率・参加人口の男女・年代別比較（平成20年）

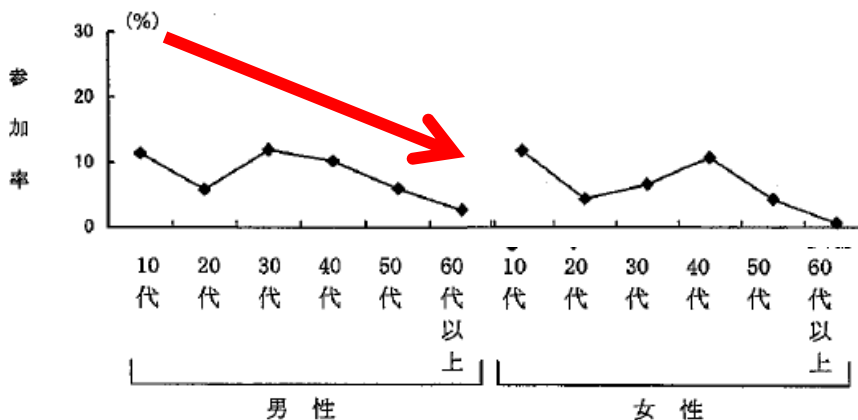
ゴルフ（コース）



スキー

出典：ウィンターレジャー白書2009

スキー



スキーエリア再活性化のための シンプルな**2つ**の戦略

- **戦略1**：エントリータイミングで、最大多数を獲得する
 - ☞ なぜなら、年代途中参入のほとんどないレジャーなので、最初（=エントリー）が命
- **戦略2**：エントリーした人々が、人生でなるべく多くゲレンデに訪れるようにする（=休眠しても復活させる）
 - ☞ LTV（ライフタイムバリュー、一生で何度スキーエリアに訪問してもらうか）の最大化

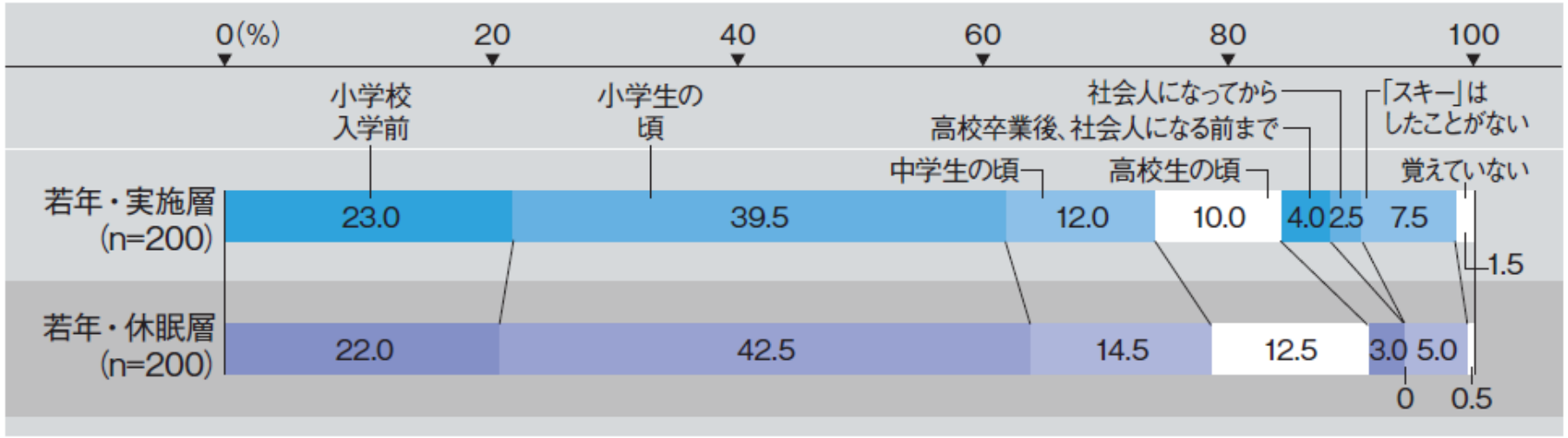


では、スキー業界にとって
非常に重要な
「エントリータイミング」は
どこでしょうか？



■ スキーを始めた時期は、「実施層」も「休眠層」も同じ時期。(小学校卒業までに、6割以上がデビュー済み)

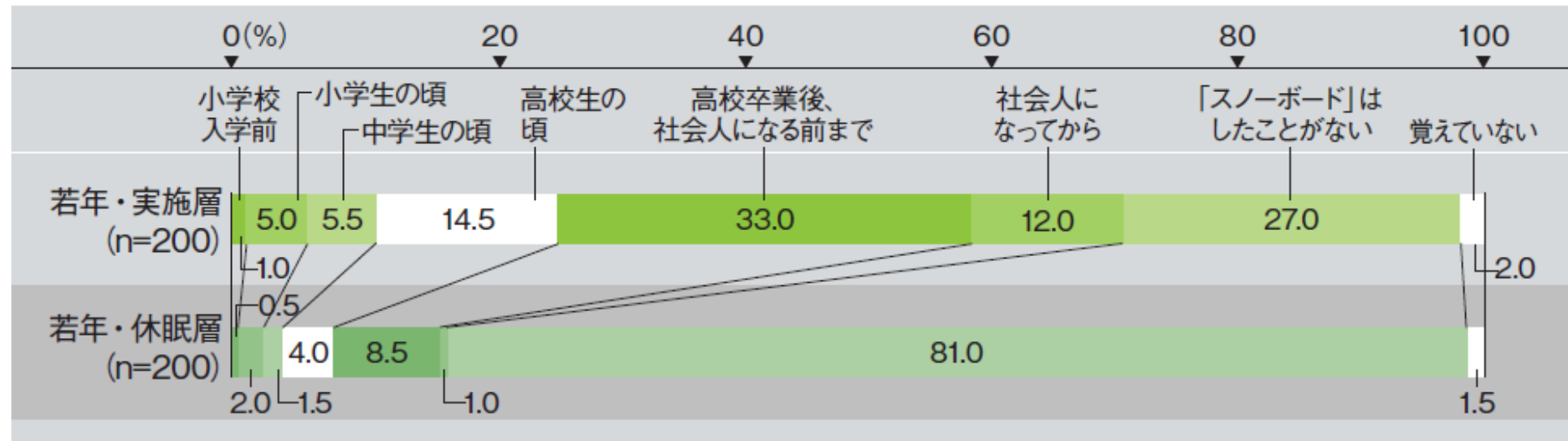
図11 「スキー」を最初にした時期 (スキー経験者/単一回答)



子供の「エントリータイミング」は、若年実施層・若年休眠層で差が出ていない

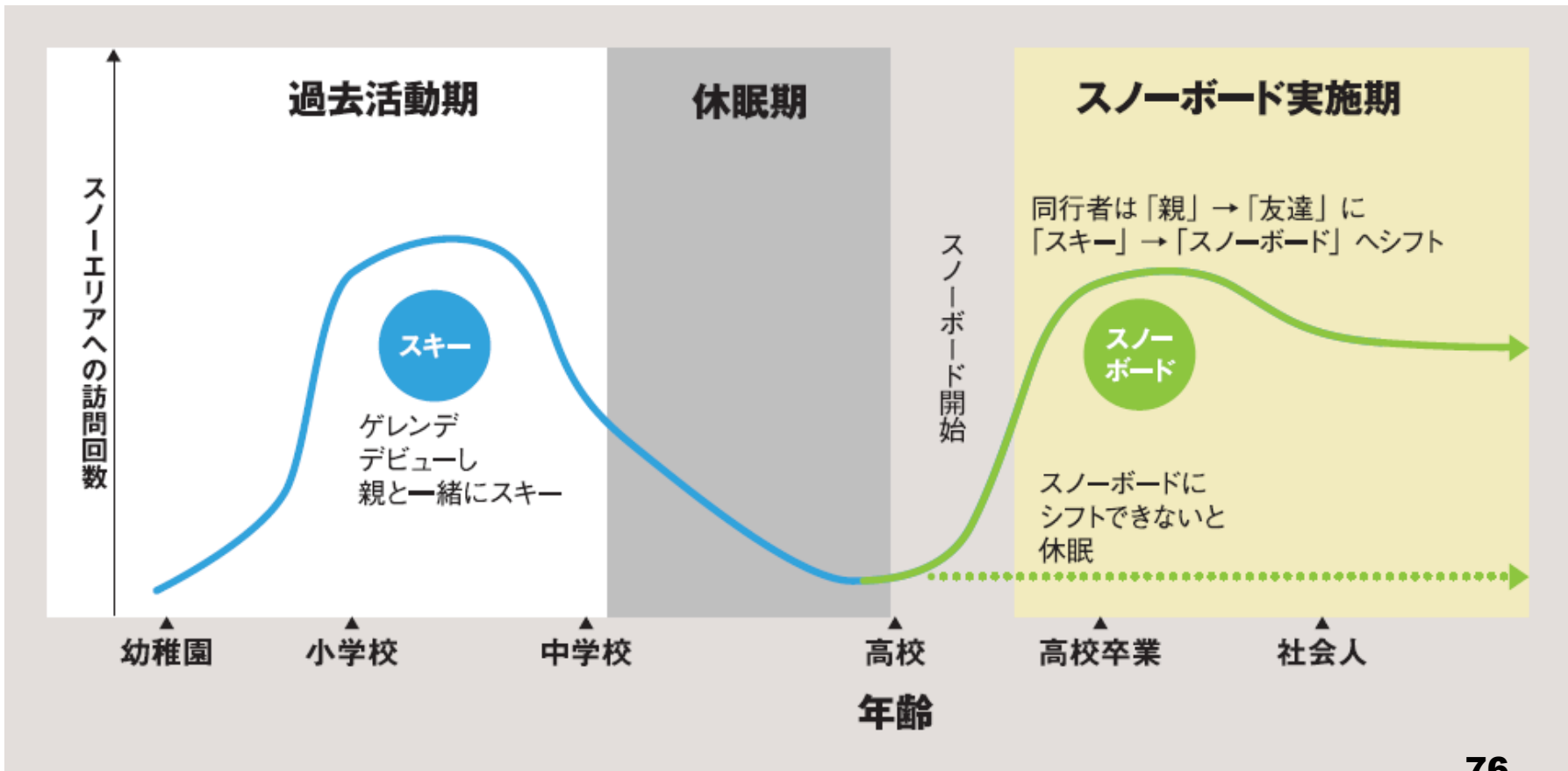
- スノーボードを始めた時期は、「実施層」は、社会人になるまでにボードデビュー
- 「休眠層」は8割以上が「スノーボードはしたことがない」

図12 「スノーボード」を最初にした時期 (スキー経験者/単一回答)



18歳～22歳の間に、「友人」と「スノーボード」に行けるか？
ここが、その後の雪山訪問を左右している

- **【仮説】** 高校生以降、同行者が「親→友達」に変化し、「ファミリー向け・年配向け」のスキーがしにくくなるのでは。
- **ボードデビューできないと、そのまま休眠へ。**



19歳の「壁」、3つの理由

- 同行者が「親」から「友達・仲間」へ切り替わる
 - ⌚ 末子高校生以上の家族スキー実施率は減少
 - ⌚ 若年層の同行者は「友達・仲間」が圧倒多数
- 費用負担が「親」→「自分」へ切り替わる
 - ⌚ 今までは親や学校に連れられて行っていたスキーエリア
 - ⌚ 19歳前後から自分の意志で、自分のおこづかいで行く
- アクティビティが「スキー」→「スノーボード」へ切り替わる
 - ⌚ スキーは「ファミリー向き・年配の人向き」で、スノーボードは「若者向き・ファッショナブル」

エントリー層 19歳をつかまえて市場拡大

■ 「親に連れられて」ではなく「自分の意志で友人と」来る19歳前後が真エントリー層

- ・シーズン1度来たけど辛いだけだった
- ・ボードデビューし損ねた

19歳

一生、ゲレンデとは縁がない...

- ・無料で何度も来られた
- ・上手になったら楽しくなった

19歳

22歳

24歳

26歳

結婚・子供で
休眠

32歳

・子連れで再訪

雪マジ！19プロジェクトとは



- エントリー層である19歳をターゲットに、業界横断で「**強くてシンプルなメッセージを発信**」し、**潜在需要層**も動かす仕掛け
- **顕在需要層**だけではなく、**潜在需要層**も、動かすことで、スキー業界の将来にわたっての**需要創出**をする



雪マジ！19プロジェクトとは

- 全国50以上「19歳リフト券無料」の賛同ゲレンデを集め、プロモーションする



19歳、無料

スキー & スノーエリア その先の未来へ

**この好機に
ぜひ、業界連携で
取り組んでいきたいと思ひます**